部報

平成27年度　No.61

北海道大学馬術部

◆ 目 次 ◆

巻頭書 …… 井上　京　2
指導部報告 …… 6
イギリスの馬術学校 …… 近藤喜十郎　13
前主将より …… 中津　裕太　16
活動報告 …… 17
　後援会からの寄付について …… 中　一輝　21
調教報告
　チェリーアドミラル号 …… 本丸　尚人　30
　ピュアメモリー号 …… 工藤　雅子　32
　北焔号 …… 髙橋　春南　34
　北菓号 …… 髙橋　春南　37
　北魁号 …… 中　一輝　39
　北創号 …… 中津　裕太　42
　北騅号 …… 寺元　純　47
　北鷹号 …… 上谷　丹里　49
　北咲号 …… 中津　裕太　51
離厩報告
　ロベルクランツ号 …… 佐治ひな子　53
入厩報告
　北秀号 …… 佐治ひな子　56
　北響号 …… 杉田　優　58
　北汐号 …… 杉田　優　59
　北稜号 …… 髙橋　春南　60
　北暁号 …… 堅田　宏樹　61
北水報告 …… 林　はるか　63
卒部にあたって …… 65
部員紹介 …… 69
ＯＢ名簿 …… 81
現役部員名簿 …… 95
編集後記 …… 96

巻頭書

馬術部の会計報告の課題

井上　　京

北大馬術部の部報には毎年、会計報告が掲載されている。たかだか１ページの表に過ぎないが、ここには馬術部の活動の一面が反映されている。非常に重要な資料であり、部の活動のあり方を考える良い材料になり得るものである。

だがしかし、これまでの馬術部の会計報告にはいくつかの大きな問題があった。

一つ目の問題、それは収入と支出の帳尻が合っていないことである。収入は収入、支出は支出として、それぞれの内容と合計額が示されているだけで、収入と支出の差額が示されておらず、それをどうしているのかも示されていない。

収入額の合計が、支出額の合計よりも多ければ、その年の会計は黒字ということになり、繰越金として次年度に繰り越されなければならない。逆に、収入額が支出額よりも少なければ、それは赤字であるので、どこかに借金や未払い金があるはずである。

そして繰越金は、翌年度の会計の収入の一部として計上され、引き継がれていかなければならない。要は、これまでの馬術部の会計には、前年度からの繰越額も、翌年度への繰越額もほとんど示されておらず、部の単年度の会計収支が黒字なのか赤字なのかも明示されていなかった。

二つ目の問題は、一つ目の問題とも関連する。収入と支出の帳尻がそもそも合っていないので判りようもないのは当然であるが、黒字や赤字の内訳がどうなっているのかが判らない。

もし黒字であったとすると、それは現金か、銀行口座等への預入金としてあるはずである。また赤字であったとすれば、それはどこかに対し、未払い金があるか、誰かからの未収金がたくさんあるということになる。これまでの馬術部の会計報告ではそこのところがまったく読み取れなかった。本来であれば、年度末の資産の状況と負債の状況が、その内訳とともに明示されなければならない。

たとえば年度末に1年間の会計を集計し、100万円の黒字（翌年度への繰越金）が帳簿上あったとする。このときは、銀行の口座残高の合計と、現金として所持しているお金の額の総計、さらにそこから未収金や未払い金を差し引いた額が、100万円とい

う黒字額に等しくならなければいけない。年に１回は、こういう確認作業をするのが望ましいし、社会のどのような組織でも、多かれ少なかれお金を扱っていればそのようなことを一般には行っている。これを「会計監査」と称している。監査は部の会計について年に1回、会計状況をチェックする良い機会になるし、大きな間違いをおこさないための大事なけじめでもある。

三つ目の問題は、収入や支出の各項目が整理されておらず、年々の比較ができないということである。支出の部は、役職単位で項目立てされているようなのでまだ良い。収入の部は、個別の内訳が羅列されているだけで整理されていない。せめて次の大項目程度にまとめる必要がある。

前年度繰越金、部費、アルバイト収入、大会等役務費、補助金、寄付、その他雑収入

アルバイト収入には各バイト先からの収入が細目として入ってくる。大会等の役務費は、半澤杯や道の大会の運営役務費が内訳となる。補助金には連盟等補助費、大学体育会強化費、後援会補助が含まれる。

項目を整理できれば、複数年にわたる分析が容易になる。たとえばアルバイト収入がどう推移しているのか、補助金の増減がどうなっているのか、繰越金がどう増減しているのか、ということが判るであろう。そしてこれらの大項目は、毎年の予算・決算で簡単に変更せず、継続していくべきである。

これまで部報に掲載された1997年から2014年までの18カ年分の会計報告から、各年度の収入と支出の額を集めて表にしてみた。ここではそれらの内訳には触れず、各年度の合計額だけに着目する。単年度の収入と支出の額はグラフにも示した。

18カ年の収入額の総計は１億43百万円あまり、それに対し、支出額の総計は１億36百万足らずで、差し引き、817万円ほどの黒字の累計額があることになった。すなわち、これまでの会計報告が正しいとすれば、８百万円以上の繰越金が残っているはずなのだが、どうもそうはなっていないということは、毎年の会計報告の精度を疑わざるを得ない。

ちなみに、あくまでこれまでの会計報告の値に基づいて、ということになるが、毎年の平均額としては、収入が800万円、支出が753万円ほどであり、馬術部の運営には毎年800万円程度を要しているということになる。

表を子細に見ると、一つ目に掲げた問題、すなわち収支の帳尻が合っていない点を解消しようとした年が何年かあったことが判る。グレーの網掛けで示したところだが、2005年から2009年にかけて、収入計と支出計の帳尻が合っており、これらの年は翌年度への繰越金も計上されている。特に2006年報告の翌年度への繰越金の額と、2007年報告の前年度からの繰越金の額（30.6万円）が一致しており、少なくとも2006年から2007年にかけては、繰越金の考え方が理解されていたようである。しかし繰越金を記載している他の年は、残念ながら繰越金の額が翌年に引き継がれておらず、単に単年度の収支を合わせているに過ぎない。2010年以降は、繰越金も計上されておらず、昔ながらの内容に戻ってしまっている。

表　各年度の収入額と支出額（1997 年～2014 年）

年	前年度からの繰越金（千円）	単年度の収入額（千円）	収入計（千円）	単年度の支出額（千円）	翌年度への繰越金（千円）	支出計（千円）
1997		8,943	8,943	8,301		8,301
1998		8,465	8,465	9,585		9,585
1999		8,912	8,912	7,201		7,201
2000		10,146	10,146	6,160		6,160
2001		7,472	7,472	5,733		5,733
2002		3,803	3,803	8,514		8,514
2003		7,601	7,601	6,972		6,972
2004		7,118	7,118	7,835		7,835
2005		7,406	7,406	5,887	1,518	7,406
2006		8,025	8,025	7,720	306	8,025
2007	306	7,392	7,697	7,695	3	7,697
2008	103	8,481	8,584	8,418	129	8,547
2009	27	8,675	8,702	7,103	1,599	8,702
2010		7,493	7,493	7,854		7,854
2011		7,603	7,603	8,361		8,361
2012		7,670	7,670	6,858		6,858
2013	266	8,907	9,172	7,193		7,193
2014		9,605	9,605	8,157		8,157
総計		143,717		135,546		
年平均		7,984		7,530		

図　各年度の収入額と支出額の推移
（1997 年～2014 年）

さてどうして馬術部の会計にこだわるのか。馬術部は、他の体育会のサークルとは異なり、学生自ら馬を養いながら、活動している。いわば馬は部員みんなの財産である。先輩から譲り受け、後輩達へ引き継いでいかなければならない財産である。また個々の競技は個人競技であるが、試合にはチームとして臨まねばならない。個々人の力だけでは馬術競技、馬術部は成り立たず、それは経済的にもあてはまる。しかも経済状態は同世代だけにとどまらず、前後の代にも影響を及ぼすため、長期的な展望をもって部の経済運営をしていく必要があり、それが部員の健全な活動と、馬の幸せにも繋がっていくと思う。その要として、部の経済状態を的確に把握し分析するための基礎として、収支会計の整理と開示が基本となる。学生が主体的に運営しているクラブ活動として、これほどの予算規模で活動している団体はそう多くはなく、おそらくオーケストラと馬術部くらいであろう。予算規模が大きくなかなか大変ではあろうが、今後の改善を期待したい。

大変残念な報告をしなければなりません。昭和34年卒部の千葉幹夫先輩が、平成27年12月８日に逝去されました。享年81歳。北大馬術部の誇る偉大な大先輩でした。北大を卒業の後、日本中央競馬会に勤務され、オリンピック東京大会とメキシコ大会の総合馬術競技に選手として出場されました。馬事公苑長や日本馬術連盟常務理事などを歴任されるとともに、数多くの馬術書を執筆・翻訳・監修されるなど、長く日本の馬術界を牽引されてきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。北大馬術部後援会のホームページに千葉幹夫先輩の追想録が捧げられております。ぜひご覧下さい（http://hokudai-horse.xsrv.jp）。

指導部報告

指導部より

昨年10月指導部が発足してから１年あまりが経過しました。部報紙上をお借りして活動を報告させていただきます。

Ⅰ．指導部発足のいきさつ

2013年終わりごろからだったでしょうか、（当時の）馬術部活動について憂慮する声がＯＢから寄せられ、もはや現役に任せておく段階は過ぎておりＯＢが関与する必要があるとの声が上がりました。そのため、ＯＢ有志が呼びかけ、議論が行われてきました。途中からこの集まりは部長が招集する懇談会という形で行われ、時により当時の現役部員にも出席を求めて開かれてきました。１年以上に亘り、概ね１－２か月に１回程度、合計10回前後開かれたと思います。詳しくは部長から報告があるかもしれませんので、以下に簡単に記します。

その当時問題点として挙げられたのは、

1）部の施設に対する認識

馬術部の施設は税金で賄われている公的施設であり、部と部外の人・組織・企業との関係がそれを踏まえて適切に行われているか、

2）装蹄依頼先の変更での問題

装蹄依頼先の変更が行われたが、その際に適切な事情説明、手続きがなされたか、

3）合宿のありかた

主力の人馬が１か月も札幌を離れて合宿するのは、本拠地の部員、馬がおろそかになり、部活動として適当なのか、

4）自馬構成

自馬の年齢構成がアンバランスで老齢馬が多く、一方新馬調教がうまくいっていない。現役だけでは新馬調教を行うのは無理ではないか、

などでした。

紆余曲折の議論を経て、昨年10月、北大馬術部にも監督以下の指導スタッフをおくこととなり、市川瑞彦（Ｓ38、監督）、近藤喜十郎（Ｓ41、監督補佐（乗馬技術））、堤英世（Ｓ46、監督補佐（厩舎管理）、川崎洋史（H12、監督補佐（馬体管理））が就任しました（以下、これら指導スタッフを指導部と記します）。

なお、この間に学生馬術連盟の規則に変化がありました。平成27年度より全日本学

生馬術連盟加盟の大学馬術部では責任者として監督（コーチ）をおかなければならないこととなったことです。これは安全面での責任の所在を明確にするためと思われますが、いわばすべての大学で広い意味で「指導部」を置かなければならなくなったということもできましょう。

Ⅱ．指導部の直面した問題

1）現役とのコミュニケーションの改善

発足当初の最大の問題は、如何にして現役とのコミュニケーションを確立していくかということでした。Ⅰ．で述べた問題点は、あくまで「ＯＢの立場」から見た問題点であって、「現役部員の立場」からすれば、いままで自分たちがアルバイトで活動資金を稼いで、学生主体で活動してきた事実があるわけで、これまでの活動に何の文句があるのか、どこが問題なのか、指導部なんて要らない、要るとしても自分たちで選びたい、などと思っても不思議はありません。また、これからお仕着せの指導部が何をするか、現役にどういう制約が加わるかという警戒心もあり得るでしょう。高学年の部員が少ない（３年２人、２年３人）こともあり、指導部の活動がきっかけで新たな混乱が生じたりしたら部の存続にも関わり、我々も責任をとれません。まずはそのため、現役とのコミュニケーションの改善を図るのが最優先と考えました。指導部が何をしようとしているのかを、まず指導部内で共有するため文章化したらどうかという案が出され、「指導部の考え方」として文章化しました。これを現役との懇談会で現役にわかってもらうための説明に使いました。また同時に、ＯＢにもわかっていただくため、「北大馬術部後援会報」に掲載させていただきました。読まれた方も多いかと思いますが、資料として再掲させていただきました。

2）現役と若いＯＢの関係の断絶

当時の現役とＯＢの間には断絶の壁があり、その壁は現役側からつくっていたと聞いています。このような状態ではⅠ.で述べた問題点の解決、特に新馬調教には、ＯＢの協力が不可欠と思われますので、改善が望まれました。

3）発足当初すでに決まっていたこととの接続

指導部の発足以前に決まっていた問題にどう対処するかも問題でした。例えば、新馬調教者、退厩馬などです。これに関しては、指導部が発足した以上、すでに決まっていることにも遡って、方針に従わせるべきだという意見が一部のＯＢから出されました（特に、ビービーバンスの離厩に際して）。その考え方は正しい方針とも言える

かと思いますが、さきに述べた「現役とのコミュニケーションの改善」を最優先にし、強い対応は控えました。

Ⅲ．この１年の活動

「指導部の考え方」に記しましたように、活動の主体は現役部員であることはいうまでもありません。指導部が権限をもつのは、その年の現役部員には責任がもてず後年の部員にも「長期間に亘って影響を及ぼす」問題です。具体的には、「繋養馬の出し入れ」と「新馬調教」です。その他指導部の指導・助言が特に必要と考えているのは、乗馬技術、練習方法、厩舎管理などです。以下にこの1年指導部の活動を報告します。

１）部馬の動静

「指導部の考え方」に記されているように、“指導部の目標として、練習にしか使えない「純練習馬」を２年以内に解消し、部馬の構成を年齢構成も含めて適正なバランスに修正したい”との方針に基づき部馬の入退厩を判断しましたが、「緊急避難」として認めざるを得ないと判断したケースもありました。

・タフィー
借用馬は基本的にはおかないとの指導部の考えに基づき返却した（11月８日）
・ビービーバンス
前述のように、指導部発足以前に決まっていたため離厩を承認（11月29日）。
・ペリエE
老齢化による離厩（11月29日）。
・サクラロミオ（９歳）
現役から新入部員の入部に使える馬が足りないとの要望を受け、「緊急避難」として練習馬として再入厩を承認し、フロンティア乗馬クラブから再入厩（５月31日）。
・カノンコード（９歳）
練習馬としても期待できると考え、ノーザンホースパークから入厩（４月７日）。
・ロベルクランツ（６歳）
現役から新入部員の入部に使える馬が足りないとの要望を受け、「緊急避難」として練習馬として借用を承認し、入厩（2015-5月-31）、契約通り11月末をもって返却（11月29日）。
・タイダルベイスン（５歳）
未調教馬、川崎氏の紹介で入厩（７月９日）。

・ダノンアンチョ（８歳）
　ノーザンホースパークから入厩（８月31日）。
・ノーステア（７歳）
　ノーザンホースパークから入厩（12月５日）。

Ⅳ．ミーティング

指導部内、現役と指導部、新馬調教者の間で必要に応じて呼びかけ、話し合いがもたれてきました。

１）指導部会議

指　導部内の意見交換は、４人が全員集まることは難しいため、日常的な相互連絡はメールによって行っています。指導部会議は全員そろう機会をとらえて行いました。全員が揃わない時は３人で行った時もあり、お互いの意思疎通は概ね良好と考えています。この１年ほどの間に６回、ほぼ２カ月に一度開かれました（10月11日（土）、11月30日（日）、１月23日（金）、２月14日（土）、３月20日（金）、８月23日（日））。

２）現役と指導部の間の懇談会

必要に応じ指導部あるいは現役側から提案し、随時懇談会がもたれてきました。内容は指導部からは、「指導部の考え方」の説明、部馬の入退厩管理、練習方法の修正の提案など、現役側からは馬配、調教の年間目標の提示などが主なものでした。これまで６回、おおむね２カ月に一度開かれてきています（10月10日、12月７日、２月14日（土）、４月２日（木）、５月31日（日）、７月19日（日）、10月17日（土））。

この他、最近では新馬調教者ＯＢの間で「新馬調教担当馬の組み替えについて」の話し合いも行われました（10月17日（土）、指導部同席、現役はオブザーバーとして同席）。

Ⅴ．おわりに

指導部が発足して間もない頃は、特にビービーバンスの離厩問題を巡って、経緯の解釈や見解で現役と対立したりしましたが、時間の経過とともに経験を共有する中で、次第にコミュニケーションが改善され、相互理解が深まってきたのではないかと思われます。

この１年で老齢馬の離厩が進み、代わりにノーザンホースパークの好意と、川崎

氏の骨折りで有望な４頭の馬（カノンコード、タイダルベイスン、ダノンアンチョ、ノーステア）が入厩しました。これらの馬と、先に入厩していた若い馬（北騅（アップヒルティガー）、北咲（チェルシー）、北鷹（シュガーシャック））と併せて考えると、かなり将来が期待できる陣容になってきたと思われます。

これらの馬は現在若いＯＢ（江口遼太（H25）、小山寛（H27）、中津裕太（H28））の諸氏により調教されており、おおむね順調に進んでいると思われます（北騅の調教に従事していた笹原良平（H27）氏は退任、ご苦労様でした）。調教を担当する若いＯＢの間でも騎乗馬の組み替えを話し合うなど、有機的な調教体制がつくられつつあるように思われます。全体として、現役、新馬調教に携わる若いＯＢ、指導部の相互間のコミュニケーションがよくなり、系統性も改善されつつあるように思われます。

残されている問題としては、次のような点があげられるかと思います。

1）依然として上級生部員が少なく、将来的に新馬調教に携わる人材の枯渇が心配な点があります（下級生部員の中から競技選手を指向し、技術向上に意欲をもつ部員が多く現れることを期待したいと思います）。

2）練習方法をさらに系統だったものに改善していくこと。

3）「合宿」について現役と議論を進め、練習方法の体系とさらに整合性のあるものにしていくこと。ここで、「合宿」とは「個人が部を離れて他の乗馬施設で馬に乗ったり、指導を受けたりして過ごす」ことを指しますが、これと同時に部員が一定期間寝食をともにしながら過ごす通常の合宿についても検討すること。

（文責　市川　瑞彦）

『再掲』

2015年３月30日

指導部の考え方

Ⅰ．はじめに

言うまでもなく、北大馬術部は北大体育会所属の公認サークルである。したがって、北大馬術部が活動する場である、馬場、部室、厩舎などは部の所有物ではなく教育施設であり、その維持も国民の税金によって賄われる公共施設である。繋養する部馬も個人のものではなく、部員全体の馬であり、自馬競技といえども参加できない部員も含めて全体の代表として参加するとの意識も重要であろう。また同時に、馬術部の背後に約300人のＯＢの存在がある。部活動も長い時間的スパンで見れば、現役部員だ

けの独立した活動ではなく、「過去及び未来の部員」とも密接な関連をもっている点も忘れてはならないことである。

馬術部は運動部である以上、「北日本学生馬術大会や全日本学生馬術大会でよい団体成績をあげたい」という目標を掲げるのは当然であるが、その目標達成に向けての活動の過程で社会人として要求される基本的マナー・能力を習得することも劣らず重要である。即ち、部員同士の間で自由な議論を通じてお互いの主張を理解し合意を形成していくコミュニケーション能力があること、一旦結論が得られたら目標に向かって推進していく実行力があること、その過程で関係者にあいさつ、返事、適切なホウレンソウ（報告・連絡・相談）ができること、などである。

これらの点を踏まえて、以下に具体的に述べる。

Ⅱ．部員が主体的に活動する部活動

権限と責任に関していえば、北大馬術部は大学の組織である以上、最も権限があり責任もあるのは、顧問教官である部長であり、指導部（監督、監督補佐の集団を指導部と呼ぶことにするが、場合によってはＯＢをも含む）は、部長から委嘱されて権限と責任が発生し、現役部員に指導・助言を与える立場にあるという関係にある。主将以下の現役部員は複数年に亘る事柄についてはその責任をもち得ない。したがって、指導部に要請されているのは、長期間を見据えた視点で指導と助言を与えていくことである。

全国の大学馬術部の例をみると、部長・指導部の権限と現役の権限がどのように境界を接するのかということになると、かなりの幅があるように思われる。一部の大学の馬術部では、現役の権限は限定的で、馬配・出場大会と出場種目の決定権限が指導部側にある。北大馬術部の場合、札幌国体の後昭和29年に自馬をもって以来約60年になるが、その間監督がいたのは半分の30年間（岡田光夫氏）であり、残りの30年間は監督がいなかった。しかし、実質的な意味では全期間を通じて部活動は現役部員が権限と責任をもって自主的に行ってきたと言えよう。指導部としても、これを踏襲するのが妥当と考えている。

Ⅲ．指導部の考え方

馬配、大会出場、競技種目のエントリーなどについては、現役の意向を尊重したいと考えているが、例えば、馬配が著しく不適切、偏りがある、調教レベルからみて出場種目が時期尚早、出場が多すぎるなどの場合には、指導・助言をすることもありうると思われる。

指導部の指導・助言が特に必要と考えているのは、乗馬技術、練習方法、厩舎管理などであるが、その他には、その年の現役部員には責任がもてない以下のような「長期間に影響を及ぼす」問題である。

1）繋養馬の出し入れ

部馬の入離厩はその年の現役部員ばかりでなく、後年の部員にも影響を及ぼす重要な問題で、指導部が権限をもつと考えている。

練習馬に関しては、指導部として基本的には競技馬でも新馬でも可能な限り練習にも使っていくのが適切という方針をもっている。指導部の目標として、練習にしか使えない「純練習馬」を2年以内に解消し、部馬の構成を年齢構成も含めて適正なバランスに修正したいと考えている。

2）新馬調教

歴史的にもこれまでＯＢの協力を得て新馬調教を行ってきたが、指導部としてはこれを踏襲し、統一的な考え方に基づき組織的に行いたいと考えている。調教方針、調教者については当事者の意見を聞きながら、指導部が決定する。

現在の馬術部では、今までの調教方針や方法が、引き継がれておらず、ほぼ白紙の状態から体系的な新馬調教の方法を確立していく必要があり、またそれを次世代に積み重ねていかなければならないと考えている。

新馬調教は４年程度で達成な方法でなければならないと考えている。また、我々の目指す調教は、個人が占有して騎乗する馬とは異なり、不特定多数の部員の騎乗を許容する馬をつくることである。このことが、代替わりによる騎乗者の個性・技量のミスマッチによる戦績の低下を防ぎ、競技馬の寿命を延ばすことにもなると考える。

イギリスの馬術学校

昭和41年卒　**近　藤　喜十郎**

2003年月９月から３年間ロンドンから西へ汽車で約３時間の古い町Gloucesterの北５キロの丘の上にあるHartpury Collegeで３年間過ごしました。その前にイギリスの馬事情について少し触れておきます。

現在でも約100万頭いるといわれています。この数字はドイツ、フランスも同じぐらいです。人口は約7500万です。週に一度は約５％の人（300万）が乗馬をすると言われています。日本では乗馬クラブと大学、高校の頭数を合わせても約２万頭ですので馬と人間との関係がイギリスではより深いものです。現在でもフランスでは馬を運搬する為や使役に使用しています。（イギリスでは馬を農耕用や運搬に使う事は禁止されています。）歴史的に見てみると日本では農耕用の馬は耕運機となり移動用の手段としては乗馬や馬車を使う期間は極めて短く且つ一部の階層のものでした。そしてすぐ自動車が移動手段の主役となりました。敢えて述べるならば日本では馬が生活の一部にあるといういわゆる馬文化が育たなかった歴史があります。

ですから学問の世界でも馬に関する研究機関は日本では獣医学部が主力です。そこでは乗馬技術に関する研究は行われてはいないようです。処が英国ではEquine Scienceには乗馬技術はもとより厩舎管理技術、飼養技術、競技運営技術も含みます。教育コースも日本と同じような大学レベル、専門学校レベルと職業として従事する技術レベルと多種多様です。

Hartpury College

大学に向かう丘をバスで登って行き頂上から下を見下ろすと広大な大学のキャンパスが目にはいります。それはクロスカントリーコースの中に正に大学がある風景です。講堂も食堂も寮も厩舎も馬場も室内練習場も全てコースに囲まれています。無論、池も林もあります。

英国で馬術のコースを持っている教育機関は約80以上あります。その中でHartpury Collegeは施設、実力、教育内容とも一番でしょう。

私は最初大学コースに入りましたが、２,３年目は乗馬訓練の授業がないので入学一年後に BHS Preparation courseに移りました。（British Horse Society 略してBHS,女王陛下に属しているのでHer Majestie's というタイトルが付く）このコースはBHSが認定する技術レベルを獲得するのが目的です。この国では馬術を他人に教える場合にBHSの資格が必要です。乗馬施設は必ず資格者を置かねばなりません。

１．Stage one.

2．Road and Safety　Stage Oneを受けた後、外で乗る為に必要な資格
3．Stage Two　Flat work と　Jumping（Doubleを含む）
4．Stage Three　Flat work（よく調教された馬場馬とあまり調教されていない馬）、Lungeing（調馬策）、クロスカントリー（野外８障害程度）、Jumping（triple 100cm）
5．Stage Four.　Flat work （ Two horses）, Jumping （120）, Cross country,
各stageとも知識問題、厩舎管理問題が課せられます。試験管は３名で、筆記試験ではなく口頭の諮問になります。例えばハミが並んでいてその名前や目的などをstageの程度が上がるにつれて難しくなります。Stageが上がると上に書いた課題の他に部班運動の号令をかけなければなりません。練習後は各騎乗者にコメントを言わねばなりません。号令が騎乗者に理解される事が大切になります。
2.のRoad and Safetyのテストは実際に一般道路で行われます。無論、ある程度安全な場所が選ばれますが審査は厳しいものです。何故なら国内で年間約400件の馬での交通事故があり、死亡事故も多々あります。これは日本では考えられない事ですが、イギリスは田園地帯が多く、馬は伝統的に通る事が認められてます。

Stage の資格は乗馬技術、厩舎管理技術、の両方が必要ではありません。Stageが高くなると乗馬指導技術はなくとも厩舎管理だけでも条件付きで資格は取れます。又、国内大会、国際大会で好成績の場合は申請し、審査の後。資格（乗馬技術部門）を得る事も出来ます。

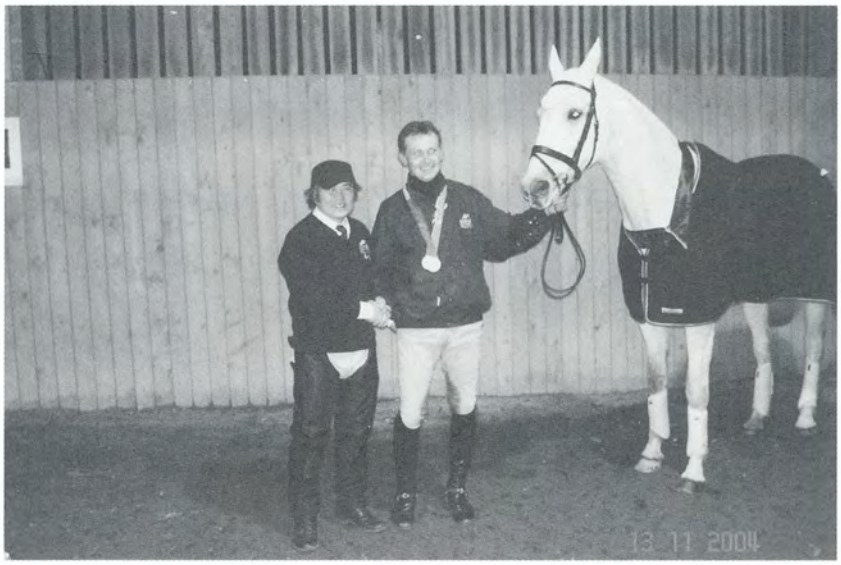
学校生活

入学生は年齢がまちまちですが16歳から20歳ぐらいです。ほとんどが女性です。私が入学した時は日本人の学生が女性２名、男性が４名でした。女性の一人は将来鞍を作るのが夢でした。乗馬クラブ経営者の子息もいました。蹄鉄屋希望の若者もいて、彼は一年後、蹄鉄技術を教える学校に転校し、その後蹄鉄屋で実際に見習いとして勤めていました。

乗馬学校は馬の手入れに始まり、手入れに終わります。学校には約80頭の馬がいましたので当番が週に三日間のローテーションできます。昼は全員でボロ拾いと乾草足し、水補給を行います。クラス分けは最初に騎乗技術の簡単な審査で行われます。20名前後です。

Flat workが週に３日、jumping が２日、Lungeingが１日、教室での講義は午前か午後必ず入ります。多くの学生が苦手で寝てしまったり、ノートを持たないで受けています。

馬の調教程度は様々で変換が出来るものから昨日まで野原を自由に駆けまわていたものまでいます。馬配は教官または助手が行いますが、取り入りの上手い生徒は有利でした。外国人は言葉が上手く通じないのでその点不利でした。



特別授業

私にとって技術指導を受けた２人のゴールドメダリストがイギリスでの忘れられない思い出です。

Lesly Law

彼からは一年目に教わりました。当時彼は国内では結構好成績を挙げていましたので大学が彼をサポートし定期的に指導コースを行っていました。Jumpingを室内の20＊60の広さに６障害を置き、高さは60ぐらいだったと思います。コース取りの時の目線を特に指摘してくれたのを覚えています。彼はその後オリンピックメンバーに選ばれアテネでは見事一位になりました。大学での優勝祝賀セレモニーには優勝馬とともに一緒に写真を撮らせてくれました。彼とは何かしら縁があり卒業式にも参列し再び硬い握手をしました。

Carl Hester

彼は今やイギリスの馬場馬術の第一人者です。北京、ロンドンで活躍し、2014年の国内大会では優勝しました。丁度、馬場審判講習セミナーで４日間の大会を見に行きましたので優勝の瞬間を見る事が出来ました。彼とはLeslyと同じように乗馬指導を数回受ける事が出来ました。当時は売り出し中でしたので結構気さくに乗馬スタッフとも交流し、私も個人的によく話ました。彼が話の中でTalland Riding Schoolで学ぶ事を薦めてくれ、そこがHartpuryから約１時間程の処でしたので３年目は個人的によく通いました。経営者であるPammyはヨーロッパはもとより世界で指導者としてとても有名で数年後、私がNottingham Universityの学生であった時、ある試合会場で偶然出会い、覚えてくれていました。PammyはCarl の先生です。

前主将より

中　津　裕　太

昨年度の部報で報告させていただいたように、昨年度から市川監督をはじめとする指導部の方たちと部活を運営することになりました。不定期ではありますが、上級生と指導部による話し合いの場を持つことで、現役部員が感じている問題、指導部が感じている問題を共有することができ、スムーズに体制を作れたのではないかと思います。

新馬として扱われている馬５，６頭は昨年、概ね80㎝程度の経路走行ができるようになりました。今年は100㎝、来年は110～120㎝、再来年に北日出場くらいを目標にしてもらいたいです。馬によっては調教に時間がかかるかもしれないので、現役部員は焦らず、お互いに現状を確認しながら調教を進めてほしいと思います。そのためにも現役部員には、普段から馬に関することだけではなく、何でも話せるような関係性を作ってもらいたいです。

最後になりましたが、昨シーズンは指導部の方々をはじめ、多くの方のお世話になりました。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

活動報告

《主将》

中　一輝

北大馬術部は現在、部員24名（３年目２名、２年目９名、１年目13名）、馬匹14頭で活動しています。

ここ数年部員数の少ない代が続き練習、運営、作業面で苦労することがありましたが最近はある程度の部員数を維持することができています。しかしその反面意思疎通や鞍数の確保などの難しさを実感しています。なにより競技志向の部員とそうでない部員が協力して部活に取り組むことはこれからも常に考えなければならないことだと考えます。競技志向の部員は自分の技術志向を目指すのはもちろんサポートしてくれる周りの人に常に感謝し、そうでない部員は自分の任された仕事に絶対的な誇りを持つ、といった全員がやりがいを持った部活を目指していきます。

馬匹に関しては昨年に引き続き指導部、ＯＢの方々の協力により新馬の入厩、調教が進められています。H27年度だけでもカノンコード号、タイダルベイスン号、ダノンアンチョ号といった有望な新馬が入厩しました。またこれらの新馬たちの調教を毎朝馬場に来ていただいて進めて頂いているＯＢの方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。一方北大で長年活躍してくれている古馬たちが高齢を迎え彼らの進退もしっかり考えていきます。さらに現在の北大のエースである北創号（サクラスペリオール）は今年で14歳であり彼が元気な内にエースを継ぐような競技馬を育てたいなどまだまだやるべき課題が山積みしております。

最後に指導部、ＯＢ、ＯＧ、関係者の方々には常に多大なご協力を頂き本当にありがとうございます。一方でサポートを受けることを現役部員は当たり前と思わず常に自分で考え自分で行動することを第一とし、自分が成長する場としての部活動を大事にして欲しいと思っております。自分たちの代の成績はもちろんのこと、次の代、そのまた次の代に繋がるものを残せるようこれからも精進していきます。

《副将》

上谷丹里

北大馬術部は近年、最上級生である四年生、三年生の数が減少する一方で、下級生の数は増加するという傾向にあります。全体としての部員数は増加しているため、バイトや作業といった一人あたりの負担は、二年目の私からしても、昨年度より軽くなってきていると感じますが、それに伴い、部員一人一人に目を配ることは難しくなってきているように思います。また、馬術は個人競技としての要素が大きいため、掲げる目標も多様化し、全日学という大きな目標に部員一丸となって向かっていくことは

容易いことではありません。悲観的な意見ばかりのようですが、厳しい状況にあるからこそ、個々人の成長や学年の枠を超えた協力は大きなものにすることができると考えております。今以上に考えや時間を共有する機会を増やし、視野を広げ、一年限りでない大きな目標を見据え活動をしていきたいと思います。

《主務》

新　谷　理　沙

主務がトップにたって仕切る「運営」という役職は部の運営を始めとして、ノーザンホースパークで行われる５大大会のうち主管大会の３大会や北大で開催される大会の運営、学校との連絡、後援会の仕事を受け持っています。私は昨年から主務をさせていただいており、今年は去年の反省をいかしてよりよい運営をすること、そして後輩にいい形で引き継ぐことを大きな目標として活動しました。

大会運営に関しましては、今年は全日本学生馬術選手権大会・女子選手権大会が北海道で行われ、普段の大会運営とは違った緊張感もあったりしましたが、特に大きな問題もなく無事に今シーズンを終えることができました。

また近年の運営の課題でありましたＯＢの皆様との連絡に関しましても、多くのＯＢの方々の力をお借りして名簿の一新をするなどの改善が見られました。ご協力いただいた皆様には大変感謝いたします。それに関しまして、現在コンパのお知らせや、連絡先変更の受付などは主にヤフーメールにて行っております。何かありましたらお手数ですがこちら（hokudai_bajutsubu_2013@yahoo.co.jp）までご連絡ください。また、大会結果やその他の連絡などは現役版ホームページ掲示板にて行います。ご覧になられる際のURLはこちら（http://8912.teacup.com/horse/bbs）になります。よろしくお願いします。

次の代へ引き継ぐということで振り返ってみると、良くなった点もあれば、まだまだ改善すべき点も山積みの状態なので、今後は後輩達の部の運営を陰で支えながら楽しみに見守っていきたいと思います。

《馬匹》

高　橋　春　南

現在、馬匹は、二年生２人、一年生３人で活動しています。人数がそろっているので、今までは手が回らなかったところにも多くの改善がありました。具体的には、馬匹内で役職を決め、厩舎の衛生面や治療方法、飼料、堆肥について見直し、新たに馬匹の中でも会計を設置しました。また今年は人馬ともに、大きな事故なく過ごせたことが何より幸いです。

薬品や飼料で分からないことがある時、馬体に問題が起こった時は、指導部で獣医師

の川崎さんに、厩舎のことに関しては指導部の堤さんに見ていただいている他、多くの方にお力添えいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

悲しい事故の報告もしなければなりません。春に農場からいただいてきた２匹の猫のうちの１匹、みりん（メス）が秋頃、部室の前で亡くなっているのが発見されました。敷地の外に出て車にひかれてしまったのではないかと思います。エルグレイ号のお墓の隣に埋葬し、お墓を立てました。まだ若く、少し前までは元気な姿を見せていただけに、部員のショックは大きいものでした。もう１匹の猫のわさび（オス）は今も元気にネズミ捕りで活躍してくれています。

馬匹のみんなで責任をもって仕事をし、部活動に一生懸命励める環境作りを目指していきたいと思います。まだまだ未熟な私たちですが、これからもよろしくお願いします。

《作業》

杉田　優

去年から引き続き作業のリーダーを務めさせていただいております。

今年は去年以上に学校の支援課が助けてくれるようになり、スコップなどの提供、敷地内の除雪、排水溝の洗浄などを業者に頼んでいただきました。これからもこのような良い関係を学校と作っていければと思います。

仕事内容は昨年に引き続き、大会準備、馬具管理、厩舎管理に加え、前々から考えていた野外障害の製作に部員の力を借り取り組む事が出来ました。この場で、部員に御礼申し上げたいと思います。忙しい中、本当に有難うございました。

人の上に立ち、状況を判断し、適材適所に部員を置き効率よく仕事をさせるのはやはり難しく私自身、未熟な部分も多いです。しかし、今年は私がやってきたことを後輩に教え、リーダーの仕事を少しずつやらせていく年にしたいと思っています。後輩には、「作業の仕事は、馬のため人のためにより良い環境を作ることである」と日々心に留め、部活に取り組んでいって欲しいです。

《会計》

寺元　純

今年は支出が収入を約450万円上回ることができました。過去例を見ないほどの収入額となりました。

収入増の理由としては寄付を多くいただいたことが挙げられます。主な寄付といたしましては、平芳兄が就職された武蔵コーポレーション株式会社様より50万円をいただきました。また、数年間現役で立て替えていた部報発行費計100万円ほどもＯＢ会様よりいただくことができました。ＯＢ会様よりはこの他にも部で統一された色のプ

ロテクターや厩舎使用品を購入していただいたり、全日学の宿泊費も補助していただいたりしました。ありがとうございました。

今後も部員数の更なる増加を目指すとともに、より余裕のある財政運営を心掛けていきたいと思います。当部活の財政状況はまだまだ安定しているとはいえないため、ＯＢＯＧの方々には、馬術部の更なる発展のためにご支援のほどよろしくお願いします。

以下、支出部門の語彙の説明を付記しておきます。

作業 備品 馬備：厩舎や部室、馬場の設備管理費及び馬具購入費

通信：電話使用料及び、諸関係機関との連絡費

馬匹 薬品 飼料：繁養馬の健康管理に関する物品や藁購入費及び新馬去勢費、飼料薬品購入費

装蹄：装削蹄費

交通：バイトや大会へ行くための交通費及びガソリン代

自動車税：部で所有する２台の乗用車の自動車税

大会関係：一部エントリー代、入厩料、選手交通費及び宿泊費

平日バイト：平日にバイトに入った場合の補助金

砂代：馬場に入れた砂代金

１年合宿補助：夏に行った1年生合宿の補助（宿泊費）

会 計 報 告

収入

部費	1,620,000
モモセバイト	502,500
フロンテアバイト	687,000
メインフィールズバイト	416,000
競馬場バイト	1,397,762
セールバイト	926,200
ノーザンバイト	1,078,352
ポニーバイト	313,580
中曽根さんバイト	45,000
選挙バイト	168,901
飼育補助金	288,000
体育会強化費	471,295
半澤杯収入	300,800
春季大会収入	618,800
道大会収入	522,600
全日選手権収入	300,000
秋季大会収入	457,000
北大ホースショー収入	37,000
その他	308,600
寄付	1,675,800
計	12,135,190

支出

作業 備品 馬備	258,045
通信	44,964
馬匹 薬品 飼料	2,211,956
装蹄	1,176,580
馬輸送費	1,134,800
自動車税	192,063
交通	759,028
大会関係	776,688
平日バイト代	104,000
砂代	216,000
1年合宿補助	145,800
雑費	475,109
繰り越し	4,640,157
計	12,135,190

後援会からの寄付について

中　　一　輝

今年度後援会からいくつかの御寄附を頂きました。以下簡単ではありますが報告とお礼とさせていただきます。

まず今年度は全日学の遠征補助として15万円を頂きました。例年全日学の遠征費用は部活としても個人としても悩ましい問題であります。今回、より多くの部員に全日学の舞台を経験させたいということでしたが遠征にかかる諸費用を払えないということで当初は諦めかけていました。ですが後援会から冒頭のように援助を頂くことで多くの部員が全日学の舞台を体験することが出来ました。特に多くの下級生は先輩たちの走行や全国のトップクラスの騎乗を直接見て大いに刺激を受けたことと思います。突然の申し出を受け入れて頂きありがとうございます。

次にこちらも後援会の御協力により試合用のプロテクターを５つ購入させていただきました。元々後援会からの寄付の申し出があり現役で話し合い試合用のプロテクターが年々不足しているということでプロテクターの購入を希望させていただきました。個数の関係でラズベリー色という中々目立つ物となりましたので試合会場では北大の馬の競技の様子と共にご覧ください。お礼を申し上げると同時に道具だけが立派ということがないよう一層練習に励みたいと思います。

以上後援会の御寄附の報告とお礼とさせていただきます。繰り返しになりますがたくさんの寄付を頂き本当にありがとうございました。このご協力に少しでも応えられるように部員一同頑張りますのでよろしくお願いします。

◆ 2015年度 戦績 ◆

●第21回　岩手大学招待学生馬術大会

(於:岩手大学　4月18日)

☆予選2ブロック

				最終得点率
	杉田　優	レーヴエトワール	北海道大学(2)	42.059
	佐治　ひな子	ヒメカミ	北海道大学(3)	52.157

予選2ブロック4位

※予選敗退

●第43 回　半澤杯記念馬術大会

(於:北海道大学　5月5日～6日)

☆100cmクラス障害飛越競技(河田杯)

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	萩原　ひな	ジョニーハーバード	ほくせい乗馬クラブ	0	0	45.12
2位	松本　早夏	レオプラズマ	函館乗馬スポーツ少年団	0	8	55.41
3位	河原田　享	シルバーデューク	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	0	9	52.03
7位	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)	14	94.84	

☆80cmクラス障害飛越競技(小池杯)

				減点	タイム
1位	山田　杏奈	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	57.66
2位	渡邊　怜平	スラマティンガル	酪農学園大学	0	57.81
3位	佐藤　駿太	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	58.19
18位	上谷　丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	73.22
20位	中　一輝	北魁	北海道大学(3)	1	77.15

☆60cmクラス障害飛越競技(井上杯)

				減点	タイム
1位	山口　梓	オーデンセ	札幌龍谷学園高校	0	73.12
2位	神山　啓	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	72.47
3位	小竹　史仁	ワンダーハヤブサ	北大水産学部	0	70.56
7位	堅田　宏樹	北菓	北海道大学(2)	1	77.94
8位	工藤　雅子	北菓	北海道大学(2)	2	79.69
10位	岸本　真琴	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	7	82.34
11位	水沼　華奈子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	12	86.19

☆クロスバー飛越競技

				減点	タイム
1位	小山　寛	北鷹	北海道大学	3	82.13
2位	宮坂　彰穂	オーデンセ	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	3	83.93
3位	阿部　穂野香	オーデンセ	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	4	88.37

☆ジムカーナ競技

				減点	タイム
1位	阿部　雪乃	マイネルレーニア	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	2	80.47
2位	佐治　ひな子	サクラロミオ	北海道大学(3)	4	87.18
3位	関寺　明音	マイネルレーニア	札幌競馬場乗馬スポーツ少年団	8	102.53
4位	笹原　良平	北騅	北海道大学	15	131.00

●第29回　北海道新緑馬術大会

(於:ノーザンホースパーク　5月22日～24日)

☆標準小障害A

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	日高　修平	キタサンガッツ	にいかっぷホロシリ乗馬クラブ	0	0	44.64
2位	松尾　慧	フェットゥデメゾン	ノーザンファーム	0	0	49.29
3位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	0	0	52.34
2反E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)			
2反E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)			

☆標準小障害C

				減点	タイム
1位	加藤　駿	アニメイト	ノーザンファーム	0	54.59
2位	本　ひかり	フリーデンスクイン	ノーザンファーム	0	58.14
3位	齋藤　大鷹	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0	60.09
11位	水沼　華奈子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	68.99
16位	中　一輝	北魁	北海道大学(3)	4	64.54

☆ステップアップジャンピング

				減点	タイム
1位	木村　瑠南	プライドエンブレム	にいかっぷホロシリ乗馬クラブ	0	59.64
2位	佐藤　典弘	サクラホウジュ	静内農業高等学校	0	61.44
3位	澤瀬　大貴	キングクリムソン	静内農業高等学校	0	62.69
10位	工藤　雅子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	72.04
14位	堅田　宏樹	北菓	北海道大学(2)	4	68.04

☆標準小障害A　S&H

				タイム
1位	佐藤　信之介	インティライミ	ノーザンファーム	61.69
2位	横山　瞬	エミリオブッチ	ノーザンファーム	66.14
3位	岡　睦	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	66.79
落馬E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)	

☆標準小障害B part2

				減点	タイム
1位	小澤 加奈子	ラブニセン	白井牧場不二ファーム	0	68.14
2位	水沼 佐和子	色は匂へど	早来エクワインファーム	0	74.94
3位	梁川 正重	ケイアイテンジン	早来エクワインファーム	0	75.74
11位	中 一輝	北魁	北海道大学(3)	12	96.83

☆標準小障害C part2

				減点	タイム
1位	櫻井 健太朗	マキシマムプレイズ	酪農学園大学	0	70.14
2位	松下 奈穂	マイネルエスケープ	ほくせい乗馬クラブ	0	74.09
3位	松井 亮	スタークイン	メインフィールズ	0	80.09
6位	上谷 丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	78.49
11位	本丸 尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	8	94.55
2反E	寺嶋 伊武樹	北菓	北海道大学(2)		

●第53回 全国七大学総合体育大会馬場馬術競技

(於:東北大学 6月6日～7日)

1位 東北大学
2位 京都大学
3位 名古屋大学
4位 東京大学
5位 北海道大学

●第50回 北海道春季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 7月27日～28日)

☆標準小障害A

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	松尾 慧	フェットウデメゾン	ノーザンファーム	0	0	44.64
2位	細井 良雄	柏影	帯広畜産大学	0	0	51.09
3位	赤坂 幸保	バルタザール	JRA日高育成牧場馬術部	0	4	43.50
5位	髙橋 春南	北菓	北海道大学(2)	0	4	50.59

☆標準中障害D

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	中津 裕太	北創	北海道大学(4)	0	0	48.84
2位	梁川 正重	ケリード・ケリーダ	早来エクワインファーム	0	4	45.14
3位	楠木 貴成	ウィンベルク	ノーザンファーム	1		

☆標準小障害B part1

				減点	タイム
1位	川合 達哲	ゴーステディ	ノーザンホースパーク	0	61.04
2位	今浦 一輝	騏天狼	酪農学園大学	0	63.49
3位	佐藤 信之助	インティライミ	ノーザンファーム	0	64.69
33位	髙橋 春南	北菓	北海道大学(2)		
2反E	中 一輝	北魁	北海道大学(3)		
2反E	本丸 尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)		
2反E	中 一輝	北魁	北海道大学(3)		
open	本丸 尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	64.94

☆ステップアップジャンピング

				減点	タイム
1位	村下 文兵	ギルフォードJ	中村宏厩舎	0	58.29
2位	松村 龍平	サクラホウジュ	静内農業高校	0	58.98
3位	宍戸 晴樹	ラパスⅡ	帯広農業高校	0	66.04
7位	杉田 優	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	71.19

☆小障害A S&H

				タイム
1位	佐藤 信之助	インティライミ	ノーザンファーム	74.94
2位	小澤 加奈子	ラブニセン	白井牧場不二ファーム	81.84
3位	森田 泰弘	フリーデンアポロ	JRA日高育成牧場馬術部	83.14
2反E	髙橋 春南	北菓	北海道大学(2)	

☆標準小障害B part2

				減点	タイム
1位	横山 奈々	インティライミ	ノーザンファーム	0	75.34
2位	宮永 美寿津	サクラアルタイル	ノーザンホースパーク	0	77.19
3位	山下 美菜	トウショウヴァース	帯広畜産大学	0	80.29
10位	本丸 尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	82.54
2反E	上谷 丹里	北菓	北海道大学(2)		
落馬E	寺元 純	チェリーアドミラル	北海道大学(2)		
open	寺元 純	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	12	82.74

☆A2課目 part1

				最終得点率
1位	緒方 美絵	イコロ	早来エクワインファーム	55.980
2位	堀 和帆	ニコラス	モモセライディングファーム	54.705
3位	百瀬 利宏	クォークスター	モモセライディングファーム	54.215
5位	髙橋 春南	北菓	北海道大学(2)	52.548

●第87回　北日本学生馬術選手権大会

(於:岩手大学　7月12日)

☆馬場馬術競技

予選Bブロック

				得点率
1位	中津　裕太	ヒメカミ	北海道大学(4)	57.348
2位	田口　輝明	ヒメカミ	東北大学	52.121
3位	山根　健太郎	ヒメカミ	岩手大学	50.152

予選Dブロック

				得点率
1位	中　一輝	生月	北海道大学(3)	52.803
2位	渡邊　怜平	生月	酪農学園大学	51.743
3位	五賀　翔太	生月	福島大学	46.136

準決勝Eブロック

				得点率
1位	宮地　洋平	ガンジュサン	岩手大学	56.970
2位	東保　吉之助	ガンジュサン	北里大学	56.742
3位	大塚　公貴	ガンジュサン	北里大学	56.364
4位	中　一輝	ガンジュサン	北海道大学(3)	54.243

準決勝Fブロック

				得点率
1位	及川　恭平	シェリーメイ	帯広畜産大学	55.530
2位	中津　裕太	シェリーメイ	北海道大学(4)	51.894
3位	田口　輝明	シェリーメイ	東北大学	47.424
4位	渡邊　怜平	シェリーメイ	酪農学園大学	43.333

決勝

				得点率
1位	及川　恭平	フジザクラ	帯広畜産大学	55.208
2位	東保　吉之助	フジザクラ	北里大学	54.931
3位	中津　裕太	フジザクラ	北海道大学(4)	54.306
4位	宮地　洋平	フジザクラ	岩手大学	50.139

●第51回　北日本学生馬術女子選手権大会

(於:岩手大学　7月12日)

☆馬場馬術競技

予選Eブロック

				得点率
1位	森　百合絵	杜秋	帯広畜産大学	55.000
2位	髙橋　春南	杜秋	北海道大学(2)	52.121
3位	佐治　ひな子	杜秋	北海道大学(3)	49.773
4位	松山　美邑	杜秋	北里大学	48.485

準決勝Lブロック

				得点率
1位	髙橋　春南	雪鐘	北海道大学(2)	51.818
2位	中野　満理奈	雪鐘	北里大学	50.303
3位	石井　由梨	雪鐘	福島大学	48.939
4位	水上　桃香	雪鐘	帯広畜産大学	48.561

決勝

				得点率
1位	伊藤　円	エフケータイガー	酪農学園大学	54.514
2位	森　百合絵	エフケータイガー	帯広畜産大学	49.375
3位	中野　満理奈	エフケータイガー	北里大学	43.611
4位	髙橋　春南	エフケータイガー	北海道大学(2)	42.222

☆障害飛越競技

決勝

				減点	タイム
1位	髙橋　春南	グラスキッド	北海道大学(2)	0	64.68
2位	森　百合絵	グラスキッド	帯広畜産大学	6	62.26
3位	中野　満理奈	グラスキッド	北里大学	21	79.88
4位	伊藤　円	グラスキッド	酪農学園大学	25	84.03

☆決勝　結果

			総得点
1位	伊藤　円	酪農学園大学	367.5
2位	森　百合絵	帯広畜産大学	349.5
3位	髙橋　春南	北海道大学(2)	304.0
4位	中野　満理奈	北里大学	293.0

●第62回　北海道体育大会
兼　第70回　国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会

(於:ノーザンホースパーク　7月24日～26日)

☆標準中障害C

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	梁川　正重	クラリッサ	早来エクワインファーム	4	0	36.09
2位	赤坂　幸保	ピッカ	JRA日高育成牧場馬術部	4	4	38.39
3位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	4	棄権	

☆標準小障害C

				減点	タイム
1位	松下　奈穂	マイネルエスケープ	ほくせい乗馬クラブ	0	61.54
2位	竹内　亮治	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0	60.09
3位	御厨　　蓮	デルタブルース	ノーザンファーム	0	65.04
5位	中津　裕太	北咲	北海道大学(4)	0	70.64
13位	杉田　　優	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	7	85.19
15位	水沼　華奈子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	8	74.29

☆標準小障害B part1

				減点	タイム
1位	田中　恭子	クマ	ほくせい乗馬クラブ	0	54.04
2位	上原　佑紀	ジャガーメイル	ノーザンファーム	0	57.24
3位	鴻丸　未歩	エイトブレーヴ	静内農業高校	0	58.19
9位	上谷　丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	77.39
2反E	本丸　尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	7	
2反E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)		

☆総合馬術競技2スターA馬場馬術課目2009Part1

				最終得点率
1位	萬浪　大輔	騄天狼	酪農学園大学	55.574
2位	吉田　詩織	騄劉	酪農学園大学	52.585
3位	渡邊　怜平	騄朧	酪農学園大学	48.854
4位	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)	47.930

☆馬場馬術競技A2課目 Part.2

				最終得点率
1位	小林　ヒサヨ	ジェフリー	マオイホースパーク	60.587
2位	小野田　潤	ルジェリ	早来エクワインファーム	58.234
3位	津田　サマンサ	マジック	ノーザンファーム	57.548
6位	中津　裕太	北咲	北海道大学(4)	53.136

●第40回 北海道馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 8月21日～23日)

☆標準小障害C part1

				減点	タイム
1位	澤井　靖子	デボネア	白井牧場不二ファーム	0	69.61
2位	梁川　正重	ピッコロ	早来エクワインファーム	0	70.29
3位	加藤　　駿	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	73.94
8位	中津　裕太	サクラロミオ	北海道大学(4)	4	79.94

☆標準小障害B part1

				減点	タイム
1位	川合　達啓	ゴーステディ	ノーザンホースパーク	0	60.74
2位	上原　佑紀	ジャガーメイル	ノーザンファーム	0	70.24
3位	横山　奈々	インティライミ	ノーザンファーム	0	77.84
12位	上谷　丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	76.69
2反E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)		

☆標準小障害B part2

				減点	タイム
1位	森　　夏希	フェットゥデメゾン	ノーザンホースパーク	0	62.19
2位	木田　悠太	コルト	ライディングチームKS	0	66.78
3位	梁川　正重	ピッコロ	早来エクワインファーム	0	68.59
4位	小山　　寛	北鷹	北海道大学	0	73.24
8位	本丸　尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	64.14

☆標準小障害C part2

				減点	タイム
1位	田中　大智	ジャスミンカラー	社台スタリオンステーション	0	59.44
2位	成瀬　　聡	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	60.94
3位	奥井　達也	ケイアイテンジン	早来エクワインファーム	0	65.04
11位	中　　一輝	サクラロミオ	北海道大学(3)	8	80.60

●第51回 北日本学生馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 8月27日～31日)

☆学生賞典障害飛越競技

				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	4	4	8
2位	磯　　匠	柏桜	帯広畜産大学	0	11	11
3位	髙橋　春南	北焔	北海道大学(2)	8	4	12
4位	高垣　春香	柏爵	帯広畜産大学	8	4	12
5位	佐藤　駿太	騄麗	酪農学園大学	20	4	24
6位	中野　満莉奈	雪嵐	北里大学	16	8	24
7位	吉田　詩織	テノリオ	酪農学園大学	4	24	28
8位	渡邊　怜平	騄朧	酪農学園大学	8	24	32
9位	大塚　公貴	雪勇	北里大学	16	24	40
10位	満浪　大輔	騄天狼	酪農学園大学	24	24	48
2反E	東保　吉之助	雪瑛	北里大学	2反E	(open)49	
2反E	及川　恭平	柏楓	帯広畜産大学	2反E	(open)16	
2反E	宮地　洋平	グラスキッド	岩手大学	2反E	(open)落馬E	
2反E	田口　輝明	杜秋	東北大学	2反E		
2反E	澤　　燦道	ジャルダンドゥモネ	東北大学	2反E		

☆学生賞典総合馬術競技

				馬場減点	耐久減点	余力減点
1位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	66.83	0	8
2位	渡邊　怜平	駿朧	酪農学園大学	73.46	0	16
3位	山田　杏奈	エベレストクライマ	酪農学園大学	67.95	12.40	12
4位	中村　幸雄	柏酔	帯広畜産大学	74.24	0	32
5位	吉田　詩織	テノリオ	酪農学園大学	70.62	50.00	0
6位	磯　匠	柏桜	帯広畜産大学	74.93	67.20	8
余力E	及川　恭平	柏楓	帯広畜産大学	65.88	0	
耐久E	向井田　斉	ハヤチネ	岩手大学	80.45		
耐久E	佐藤　駿太	駿麗	酪農学園大学	73.82		
耐久E	髙橋　春南	北菓	北海道大学(2)	71.13		
耐久E	満浪　大輔	駿天狼	酪農学園大学	67.95		
耐久E	森　百合恵	柏輪	帯広畜産大学	72.95		
耐久E	宮地　洋平	グラスキッド	岩手大学	73.55		
open	小山　礼高	慶紗	慶応義塾大学			16

☆小障害飛越競技A

				減点	タイム
1位	今浦　一輝	駿朧	酪農学園大学	0	71.14
2位	磯　匠	プットオンザリッツ	帯広畜産大学	0	73.19
3位	神山　啓	駿天狼	酪農学園大学	4	67.09
5位	中　一輝	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	8	71.89

☆小障害飛越競技B

				減点	タイム
1位	遠藤　南	雪嵐	北里大学	0	68.79
2位	三浦　奈々子	福燕	福島大学	4	98.04
3位	大村　勇貴	雪嵐	北里大学	5	84.04
5位	寺元　純	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	12	64.64
2反E	中津　裕太	ダノンアンチョ	北海道大学(4)		
2反E	中　一輝	サクラロミオ	北海道大学(3)		
open	中津　裕太	ダノンアンチョ	北海道大学(4)	0	69.64
open	髙橋　春南	ダノンアンチョ	北海道大学(2)	0	68.89

●第87回　全日本学生馬術選手権大会

(於:ノーザンホースパーク　9月12日～13日)

☆馬場馬術競技

1回戦Aブロック

				得点率
1位	中津　裕太	アッチャン	北海道大学(4)	56.894
2位	西端　将展	アッチャン	甲南大学	56.591
3位	大塚　公貴	アッチャン	北里大学	55.985
4位	北山　大貴	アッチャン	広島大学	55.455

2回戦Jブロック

				得点率
1位	吉永　晃之佑	シルクエステート	京都産業大学	55.682
2位	中津　裕太	シルクエステート	北海道大学(4)	55.000
3位	松坂　元彰	シルクエステート	神戸大学	54.924
4位	西端　将展	シルクエステート	甲南大学	51.288

準決勝Mブロック

				得点率
1位	住岡　崇	ハギノトリオンフォ	同志社大学	59.306
2位	二川　祥	ハギノトリオンフォ	専修大学	58.542
3位	中村　幸喜	ハギノトリオンフォ	明治大学	56.597
4位	中津　裕太	ハギノトリオンフォ	北海道大学(4)	55.625

☆障害飛越競技

準決勝Mブロック

				減点	タイム
1位	住岡　崇	ドゥーマイベスト	同志社大学	4	75.440
2位	中津　裕太	ドゥーマイベスト	北海道大学(4)	12	73.340
3位	中村　幸喜	ドゥーマイベスト	明治大学	20	67.840
4位	二川　祥	ドゥーマイベスト	専修大学	20	76.190

☆準決勝　結果

			総得点
1位	住岡　崇	同志社大学	423.0
2位	二川　祥	専修大学	401.5
3位	中津　裕太	北海道大学(4)	388.5
4位	中村　幸喜	明治大学	387.5

※上位2名が決勝進出のため、準決勝敗退

●第51回　全日本学生馬術女子選手権大会

(於:ノーザンホースパーク　9月12日～13日)

☆馬場馬術競技

1回戦Dブロック

				得点率
1位	澤島　雅	ミッションモード	立命館大学	57.348
2位	入道　陽香	ミッションモード	岡山大学	52.803
3位	中野　満璃奈	ミッションモード	北里大学	51.667
4位	髙橋　春南	ミッションモード	北海道大学(2)	51.288

※上位2名が2回戦進出のため、1回戦敗退

●第29回　北海道秋季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク　9月18日～20日)

☆標準小障害A

				減点
1位	広瀬　春行	ゴールドソーサー	ノーザンファーム	0
2位	楠木　貴成	デネブ	ノーザンファーム	0
3位	横山　瞬	エミリオブッチ	ノーザンファーム	0
2反E	上谷　丹里	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	

☆標準中障害C

				減点
1位	宮永　美寿津	サニーHV	ノーザンホースパーク	0
2位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	0
3位	吉田　楓	ブライトガスター	ライディングファーム・フセ	4

☆標準小障害C　part1

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	渡部　音菜	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0	0	47.19
2位	高野　華	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	0	47.64
3位	阿部　瑠美	デルタブルース	ノーザンファーム	0	0	49.04
7位	髙橋　春南	ダノンアンチョ	北海道大学(2)	4		
2反E	上野　健太	北菓	北海道大学(1)			

☆小障害A　S&H

				タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	横山　瞬	エミリオブッチ	ノーザンファーム	67.74	4	49.59
2位	田口　貴也	ルジェリ	早来エクワインファーム	67.99	棄権	
3位	村下　文兵	Hコンステレーション	早来エクワインファーム	70.44		
13位	本丸　尚人	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	98.54		

☆中障害B　S&H

				タイム	タイム
1位	梁川　正重	クラリッサ	早来エクワインファーム	66.34	58.24
2位	中津　裕太	北創	北海道大学(4)	80.79	65.14
3位	白川　萌仁香	ウィコジャック	早来エクワインファーム	84.39	70.49
					75.19

☆標準小障害C part2

				減点	タイム
1位	本　ひかり	デルタブルース	ノーザンファーム	0	71.69
2位	手塚　貴徳	アニメイテッド	ノーザンファーム	0	73.09
3位	髙橋　春南	ダノンアンチョ	北海道大学(2)	0	77.04

☆A2課目　part2

				最終得点率
1位	小野田　潤	ルジェリ	早来エクワインファーム	57.156
2位	平山　眞理子	ケイアイライジン	早来エクワインファーム	57.058
3位	佐藤　朱佑子	コーイヌール	早来エクワインファーム	56.078
6位	杉田　優	北魁	北海道大学(2)	49.117
8位	工藤　雅子	北菓	北海道大学(2)	47.058
10位	古川　瑞穂	北菓	北海道大学(1)	45.980
11位	寺嶋　伊武樹	北魁	北海道大学(2)	42.058

●第35回　山下杯・河田杯記念馬術大会

(於:酪農学園大学　10月4日)

☆第1競技　標準小障害A

				減点	タイム
2位	上田　丹里	緑天狼	北海道大学(2)	8	90.67

☆第2競技　標準小障害C

				減点	タイム
1位	上野　健太	緑朧	北海道大学(1)	0	68.32
2位	寺嶋　伊武樹	緑朧	北海道大学(2)	0	71.81

☆第3競技　クロスバー障害

				減点	タイム
1位	矢渡　光	緑天狼	北海道大学(1)	0	84.67
2位	井畔　貴之	緑朧	北海道大学(1)	0	88.72
落馬E	桑本　涼成	緑天狼	北海道大学(1)		

●第37回 北海道地区乗馬大会

(於:ノーザンホースパーク 10月10日～11日)

☆第3競技 チャレンジ70 障害飛越競技

				減点	タイム
第13位	中津 裕太	北騅	北海道大学(4)	0	74.56

☆第4競技 ビギナーズ50 障害飛越競技

				減点	タイム
第12位	中 一輝	カノンコード	北海道大学(3)	0	79.66

☆第14競技 A2課目

				最終得点率
第8位	佐治 ひな子	サクラロミオ	北海道大学(3)	54.607
第20位	本丸 尚人	サクラロミオ	北海道大学(2)	50.686

●北大馬術部主催交流戦

(於:北海道大学 10月17日)

☆第2競技 80cmクラス

				減点	タイム
第1位	中津 裕太	北騅	北海道大学(4)	0	70.28
3反E	高橋 春南	ダノンアンチョ	北海道大学(2)		

☆第3競技 クロスバー

				減点	タイム
第1位	桑本 涼成	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	54.38
第3位	富所 菜々花	ダノンアンチョ	北海道大学(1)	0	63.13
第4位	清田 興朔	北魁	北海道大学(1)	0	66.31
第5位	高橋 春南	ダノンアンチョ	北海道大学(2)	0	67.6
第7位	中 一輝	サクラロミオ	北海道大学(3)	0	76.19
第8位	北市 楓美	サクラロミオ	北海道大学(1)	0	80.47
第9位	松本 朋華	サクラロミオ	北海道大学(1)	4	142.12
第10位	大木 八恵	サクラロミオ	北海道大学(1)	8	91.88
落馬E	古川 瑞穂	サクラロミオ	北海道大学(1)		

☆第4競技 60cmクラス

				減点	タイム
第1位	寺元 純	北魁	北海道大学(2)	0	59.34
第2位	寺元 純	北騅	北海道大学(2)	0	64.97
第3位	井畔 貴之	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	0	68.25
3反E	佐治 ひな子	ロベルクランツ	北海道大学(3)		

☆第5競技 ジムカーナ

				減点	タイム
第1位	横尾 夏未	ロベルクランツ	北海道大学(1)	0	87.03

●全日本学生馬術大会

(於:馬事公苑 10月30日～11月4日)

☆学生賞典障害飛越競技

				1走目減点	1走目タイム	2走目減点	2走目タイム	総減点	総タイム
第1位	松水 優斗	バーデン・バーデン	関西大学	0	78.51	0	77.69	0	156.20
第2位	松本 譲	桜宗	日本大学	4	77.71	0	80.11	4	157.82
第3位	品川 皇王	Cセリカ	同志社大学	4	81.20	0	80.04	4	161.24
第35位	中津 裕太	北創	北海道大学(4)	20	82.12	8	79.81	28	161.93
第50位	吉田 詩織	テノリオ	酪農学園大学	12	81.07	36	96.30	48	177.37
第51位	渡邊 怜平	騏朧	酪農学園大学	32	78.01	20	78.64	52	156.65
第52位	高橋 春南	北焔	北海道大学(2)	28	78.98	28	74.08	56	153.06
E	高垣 春香	柏爵	帯広畜産大学	8	81.11	2反E			
E	佐藤 駿太	騏麗	酪農学園大学	2反E		2反E			
E	磯 匠	柏桜	帯広畜産大学	2反E					

☆学生賞典馬場馬術競技

				得点率
第1位	沖廣 諒一	桜憧	日本大学	68.625
第2位	小林 奈央	明桑	明治大学	64.800
第3位	丹波 れい	龍旺	立命館大学	64.300

☆学生賞典総合馬術競技

				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
第1位	中村 幸喜	明鳳	明治大学	47.7	0	0	47.7
第2位	今橋 裕晃	桜覇	日本大学	49.3	0	4	53.3
第3位	大富 祥貴	ラスベガス	専修大学	55.6	0	0	55.6
第20位	中津 裕太	北創	北海道大学(4)	65.4	9.6	4	79
第25位	中村 幸雄	柏酔	帯広畜産大学	71.9	0	24	95.9
第30位	及川 恭平	柏楓	帯広畜産大学	67.6	25.6	16	109.2
第31位	渡邊 怜平	騏朧	酪農学園大学	79.3	10.4	20	109.7
第32位	吉田 詩織	テノリオ	酪農学園大学	72.9	33.2	4	110.1
第40位	磯 匠	柏桜	帯広畜産大学	77.2	31.6	27	135.8
E	山田 杏奈	エベレストクライマ	酪農学園大学	66.7	19.6	落馬E	
E	森 百合恵	柏輪	帯広畜産大学	69.5	落馬E		

●第55回北日本学生馬場馬術定期新人戦
(於:東北大学　11月23日)
☆予選Aブロック

			最終得点率
矢渡　光	杜煌	北海道大学(1)	41.912
井畔　貴之	ラ・カスターニャ	北海道大学(1)	51.912
大木　八恵	壮太郎	北海道大学(1)	1.471

予選Aブロック2位
※上位1位が決勝進出のため、予選敗退

●第37回　国立大学対抗馬術大会
(於:群馬大学　12月5日)
☆予選Bブロック

			減点	タイム
上野　健太	スリーアイアン	北海道大学(1)	0	53.34
杉田　優	ブラックユニバンス	北海道大学(2)	129	120

予選Bブロック3位
※上位1位が決勝進出のため、予選敗退

調教報告

◆チェリーアドミラル号◆

セン　サラ　芦毛
平成５年４月22日生
北海道様似郡様似町川部牧場産
父　サクラユタカオー
母　チェリーユミコ
平成22年８月１日入厩

本　丸　尚　人

2014年の９月から2015年のまでの１年間、チーフとしてチェリーにつかせていただきました。今回２回目の調教報告として再び書かせていただけることは光栄ではあるのですが、チェリーは僕の今まで見てきた練習馬の中では完成された馬であり、また自分の知識不足、技術不足から調教報告というよりはこの１年間のチェリーの状態、どういったことをしてきたかということをお伝えできればと思いますのであらかじめご了承下さい。

去年の報告でも書かせていただいたのですが、チェリーのチーフを務めるにあたってこの１年間を通しての目標は１、２年生が待っているだけで障害を跳んでくれる状態を維持することと高齢等からくる馬体の容態が悪化することを防ぐことであったと思います。運動に関していえば、僕がつく頃にはすでに少し癖になってしまっていた直線運動を行っているときに馬の首が左を向いてしまうというものを最初の頃の自分は外の手綱を強く持ってしまい悪化させてしまうという形になってしまいました。各個運動の際は輪乗りで内方を意識しましたがなかなか形にはならず、修正することはできませんでした。直接的な運動の報告からは外れてしまいですが、チェリーは練習馬ではあるのですが高齢のため無理させることは極力控えるようにしました。例えば鞍数を減らす、２週間に１回は馬の気分転換を兼ねて外乗へ行く、大会の前後には常歩だけの日を入れるなどを行いました。鞍数を減らすというのは去年までも考えてきたことだったのですが今年はロベルクランツやサクラロミオが１年生の良い練習馬となってくれたので実現でき、その負担を軽減できたのではないかと思っています。ただ、まだまだ未熟な我々２年生が大会に出るうえでクラスをあげるとなるとチェリーのような馬は必要不可欠であり、１度の大会での出場数に制限を設けたとはいえ、か

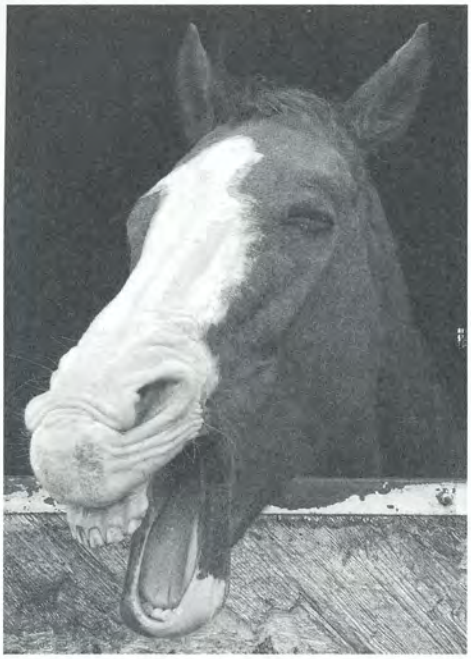
なりの負担をかけてしまいました。チェリーが健気に毎回の大会で飛越してくれたおかげで個人的にLAのS&Hを、他の２年生もLAクラスを完走するという来年競技馬を担当するうえで必要だろうと思われる経験を得ることができました。

馬体の面については１年を通してみれば比較的維持はできましたが、その節々に馬体の悪化が見られる場面が見受けられました。例えば、大会シーズン中は幾度か鼻血を出してしまう場面や、日々の運動でも歩様の悪化が目立っていました。LAクラスなら完走できる元気は残ってはいるものの人の技術が足りず、騎乗中に馬をよくすることは難しく、１年やってみて現状を維持することはできませんでした。しかし、まだまだ１，２年生が安心して障害を跳べる馬となると育っていないのが現状であり、チェリーに働いてもらわざるを得ない状況です。そこで、来季はシーズン中であっても運動量の調節、上級生の乗り直しなど徹底して維持に努められればと思います。

これからの１年間はチェリーにとって本当に最後の１年間ということになると思うので現チーフである井畔を中心に運動はもちろん、馬体管理についても今まで以上に取り組んでいってもらいたいです。もちろん、自分も未熟ではありますが、チェリーの馬体管理のサポート等関わらせていただければと思っています。それと同時に、これからはチェリーから学ばせてもらったことを他の北大の馬に還元できるよう努めたいと思います。また、そうすることで新馬が育ち、チェリーが役目を終え、元気なうちに安心して北大の馬場を旅立てることを祈っています。

毎日毎日大変だろうけど、北大馬術部のみんなをその背中に乗せて頑張ってね、チェリー。

◆ピュアメモリー号◆



牝　サラ　栗毛
平成14年３月12日生
北海道沙流郡門別町産
父　マヤノトップガン
母　ミルメモリーズ
平成25年４月13日入厩

工　藤　雅　子

私は去年の５月から、佐治姉から引き継ぐ形でピュアのチーフに就かせて頂いています。知識も技術も未熟な私が乗っていくにはとても難しい馬で、私が彼女にしてあげられたことはとても少ないですが、現時点に至るまでの馬体管理、運動の状況のご報告を持って調教報告とさせて頂きます。

ピュアは障害に対してひるんでしまう事が多く、キャバレッティーや横木でさえも騎乗者によっては我儘をして避けてしまったり、拒止してしまったりすることが多くありました。そこで当面の目標として、馬が落ち着いてキャバレッティーを通過できるように人間がしっかり体を起こすこと、脚で挟んで通過中によれられないようにすること、などを念頭に置きながら練習をしていました。しかし、夏の始め頃から歩様が悪化し、度々跛行を繰り返すようになりました。装蹄師さんに診てもらったところ、左前肢に挫跖の跡があり、これが原因ではないかという事でした。ピュアは私がチーフに就かせて頂く以前、蹄の状態が悪く、裸蹄のまま運動していました。そのおかげか幸い蹄の状態は良好だったため、無理をして蹄鉄を付ける必要はないだろうということで、そのままにしていました。が、今回のような結果になってしまったため、前肢のみを装蹄して頂くことになりました。その結果歩様は大分回復しましたが、前肢を元々痛めやすいようで、決して良い歩様と言うことはできない状態です。馬の状態上、仕方ないという結論付けもできますが、人に乗られると焦ってしまい、どんどん馬が前のめりになる上に小股でせかせかと落ち着きのない歩きをするので、余計前肢に負担がかかります。なので、騎乗者が最低限気を付けなければならないことは、

・馬の動きにつられて前傾姿勢にならないこと。（馬が焦り、余計前のめって前肢に

負担をかけてしまうから。）
・体を起こして脚を使い、落ち着いてゆったりとした常歩を作ること。
単純なことのように見えて、この馬でこの二つのことを実行するのはとても難しかったです。まずは一鞍目で元気よく動かしていかないと、後々の馬配に影響を与えてしまうほどでした。

こういった状態のため、ピュアは現在障害の練習を行うことができていません。私の力不足でこのような結果になってしまったことはとても悔しいです。しかし彼女は基本的に素直ですし、反動も少ないため、練習馬としての最低限の仕事はやってきてくれたと思います。今後とも彼女の馬体維持を最優先に考え、引継ぎ等私のやるべき仕事をこなしていく所存です。

◆北焔号（ファイヤーマリオ）◆

セン　サラ　黒鹿毛
平成６年３月25日生
北海道白老町社台牧場産
父　トウショウマリオ
母　アンバーエルン
平成21年10月31日入厩

高　橋　春　南

マリオは、北大に入厩して以来、毎年全日へ進んでいるという結果からもわかるように、とても高い実力を持った馬です。調教できたことなど何もなく、マリオに教えてもらったことを書こうと思います。

私がマリオのチーフになったのは、昨年の三木での全日が終わってからでした。「北日優勝、全日入賞」を目標に、私とマリオの一年間が始まりました。人にとっては高すぎる目標ではないかと思いましたが、馬の能力的には十分に可能な目標だったと思います。

全日から帰ってきてから脚の熱とびっこがひどかったのでしばらくは休ませ、雪が積もり始める少し前から、小山さんが続けていたというバイタルウォークを始めました。バイタルウォークは、速歩が出そうなくらい元気な常歩で歩かせ続けるという運動です。マリオにはもともと脚に持病があるので、できるだけ負担をかけずに馬体を維持することを目的に行いました。ハミは気にせず、まっすぐに前に推進することを第一に、馬場を大きく直線を長くとるように運動しました。私は、脚をずっと使い続けてどんどん鈍くしてしまう癖があり、さらにバランスが偏っていて左右均等に脚を使えていなかったので、初めのうちはバランスと脚扶助を意識しながら第二蹄跡をまっすぐ歩かせる練習をしました。馬が集中せず、立ちあがり走ってしまった時がありました。膝が上がってしまい馬の好き勝手にさせていたからです。その日以降、馬が完全に私より優位になってしまい、急に走り出す癖をつけてしまいました。引馬中にも走りだして引きずられることもありました。最初の馬との関係は最悪だったと思います。

雪が積もってからは、それがさらに悪化し、馬場で一頭の時でも、私では背中に乗っていることもできないほど暴れたため、冬季はほとんど中津兄に乗り直しをしていただきました。最初は興奮が収まらないので、速歩で、輪乗りの中で内包姿勢をとって落ち着かせてから、常歩で手綱を伸ばしてもハミについてくるようにしていました。

冬季はテンションが上がりやすいので、コンタクトを保ち、馬に好き勝手させないようにしないといけません。

私は、春休み終わりころからは前のように乗っていられないほど暴れることはなくなりましたが、ハミをかちゃかちゃさせて人に全く集中していない状態でした。雪が解けてからは、馬と人の関係を作るためと、しっかり動かすために調馬策を試みました。最初は暴れることがありましたが、私の声で移行をスムーズにできるようになり、駈歩まで策でまわしてから騎乗で常歩運動をするようにしました。以前よりも体を使えるようになり馬の調子が良くなっていく感触がありましたが、二週間ほどでびっこがひどくなったので、調馬策はそれ以来やっていません。

また、装蹄師の多田さんのアドバイスで、運動の中に７本以上のキャバレッティーを取り入れることにしました。大きな動きで背中を使わせて、馬のリズムを作るために、７本以上という多めの本数を常歩で毎日行いました。本数が多いほうが、リズムを作れるのに加えて集中力が高まる気がします。

毎日の運動の組み立ては、最初、手綱を長くした状態で大きく歩かせ、次に少し短くした手綱の長さでキャバレッティーを左右に入る方向を変え、その合間に輪乗りを取り入れていきました。キャバレッティーにまっすぐに入り、輪乗りでは内包姿勢をとれるように、といった基本的なことを繰り返しました。キャバレッティーを挟むことで、自然と馬が動き、テンションが高めの日もキャバレッティーを入れると馬が集中して落ち着かせることが出来たので、マリオと私にはこの運動が合っていたと思います。この運動を全日まで毎日、40分以上、試合前は1時間ほどやりました。速歩、駈歩は時々馬の歩様を確認する程度に行いました。一年を通して動かさなすぎかとも思いましたが、結果的にコンスタントに運動を続けることができたので、これはこれでよかったのだと思います。

試合後は、毎回脚を痛めてしばらくの間休まなければならなくなるので、学生の大会以外に出る試合は春自馬と国体予選だけにしました。どちらの大会でも、練習馬場で障害の本数を抑えようとしすぎて馬が動ききれないようでした。本番前は、無駄な障害飛越は抑えなければなりませんが、しっかり動かして、本番で馬も人も集中できる状態を作ることが必要だと感じました。

北日ではフレンドリーは、跳ぶ障害は、水豪と、苦手意識があるという赤い障害と、練習していないダブル障害に絞りました。フレンドリーは全く問題なく、脚の状態も悪くありませんでした。本番の二回走行当日は、準備馬場で早来エクワインファームの梁川さんに見ていただきました。第一走行目は入りを元気よく走らせて入りました。第一障害の入りはよかったのですが、ちゃんと戻すところを作れておらず、人が馬を信用しきれていなかったので、ずっと押しながら手は引っ張っている状態で、後半になるにつれて人も馬も苦しくなっていました。そのせいでダブル障害のオクサーを落としてしまいました。また、人が回転で内方の手を引っ張って使うせいで回転でオーバーランし、障害にまっすぐ入ることができずもう一つの落下につながりました。内容的にはあまりよくなかったですが、第一走行目ですっかり緊張がほぐれたのと、優

勝も狙える位置にあるということが分かり、マリオとなら絶対に大丈夫だという自信が生まれました。しかし、第二走行目は人の油断から一つ目の入りが弱く、落下をしてしまいました。そのあとは建て直し、回転であまり内方の拳を使わないようにすることと、引っ張りすぎないことを意識し、落下は一つに抑えられました。気を抜いていなければ、十分に満点で帰ってこられる人と馬の状態だったので本当に悔しいです。（後になって分かったのですが、２走目の敬礼の前に、スタートラインを間違えて切ってしまっていました。大きな大会こそ気を抜かずに基本を見直さなくてはなりません．．．）

マリオは近くから跳ぶよりも遠くから跳ぶほうが得意です。なので、本番前の練習馬場では障害の根っこまで持ってくるようにし、本番では少し遠めから跳ぶようにすると落下を少なくすることができます。だんだんエンジンがかかってくると手を強くしてしまいがちですが、マリオはしっかり自分のバランスで走ってくれるので、手は強くせず、同じところでまっすぐに乗ることを意識したほうが馬は跳びやすくなります。障害の前に来ると、自然とバランスが起きてきます。

北日後は、引馬で速歩をするときに頭が上下に動くのがなくなるまで回復してから運動を再開しました。例年よりも北日後のダメージが少なかったため、２週間ほどで再開できました。

全日は、マリオのホームである馬事公苑で行われました。トレーニング競技では、10個程度、跳べる障害はすべて跳ぶ予定だったのですが、力を入れずに落ち着いてやろうと考えていたら全くうまくいかず拒止が続き、本番はもう後がない、やるしかない、という思いでした。「入場は走らせて馬のスイッチを入れる。１から４までの障害とトリプルを跳ぶ前には、鞭を使って絶対に跳ばせて流れを作る。引っ張るくらいに手綱をもって馬の上体を起こしておけば障害前で止まることはできない。」という作戦で、一走目は減点28でむちゃくちゃながらも帰ってくることはできました。全く止まる気はしませんでしたが、２走目も止まるかもしれないという気持ちで前に出していきました。一走目は直線を長くとろうとしてオーバーランをして馬の流れを止めてしまっていたので、二走目は内か外を選べるところではできる限り内を選ぶようにしました。結果は同じく減点28。一走目を繰り返しただけで、減点を減らすことができませんでした。馬につかまって根性で帰ってきました。

マリオには、全日という大舞台を経験させてもらいました。マリオは日本一の馬だと思います。まだまだ活躍できるのではないかという思いはありますが、やはり脚の状態から、来年で引退をするのがいいのではないかと思います。マリオのような馬を引き取ってくれるところを探すのは難しいと思いますが、長年北大で素晴らしい活躍をしてくれたマリオにはきっといい離厩先を見つけてやりたいと思っています。

未熟な私にマリオに乗る機会を与えてくれた部員のみなさん、ありがとうございました。マリオには毎日、「調子乗るなよ、若造！」と言われているような気持でしたが、全日では勇気を与えてくれる頼もしい先輩でした。一年間ありがとう。来年も全日に行って、有終の美を飾ってほしい。

◆北菓号（ログキャビン）◆

セン　サラ　栗毛
平成８年３月８日生
アメリカ産
父　Woodman
母　Great Christine
平成21年９月15日入厩

髙　橋　春　南

去年の北日後から一年間ログを担当させていただきました。「北日で総合の権利を獲る」ことを目標に掲げスタートしました。

シーズン明けの半澤杯から100センチを余裕で帰ってきました。その後も順調に高さを上げていけるかと思いきや、ノーザンに行ったとたん帰ってこられません。実践練習が足りなかったのだと思い、北大では苦手な回転からの障害を高くして８の字に跳ぶのを行いましたが、それが逆効果で腰を痛めてしまいました。その後も100センチはフレンドリーでしか帰ってこられません。無理な高さを続けて失権し、馬との関係も悪くなっていました。完全に人をなめて、試合で拒止すれば障害を跳ばなくてもいいのだと思ってしまったのだと思います。余裕のはずの低いクラスに他の２年生が出ても、２反抗失権してしまうような状態でした。

そこでフラットワークから見直し、もっと前に出してハミに出せるように、背を反らさず頭を低い位置で動かす練習をしました。拳は下の方で使い、詰め伸ばしを入れながらどんどん脚を使って動かしていきます。ログは多少パワーが必要なところがあると思います。譲ったら返してやるというのを繰り返しました。中津兄、ＯＢの喜十郎さん、現役の時にログの調教をされた江口さん、貫名さんはじめ、多くの方に練習を見ていただきました。練習では極力高い障害は跳ばないようにし、体への負担を減らしました。大会では早来エクワインファームの梁川さんに見ていただき、競技終了後に梁川さんに乗っていただいた後に自分が乗せていただく機会がありました。その時に、ハミがいつもより安定しており、障害に向けると馬が自分から向かっていくような感覚がありました。それがハミに乗るということなのだと思います。障害前はしっかり脚を挟み、ひるみそうになったら押し込んでやります。このひと押しがそれま

で足りなかったのだと思います。

野外障害については十分に馴致を行いました。ＯＢの川崎さんに見ていただき、ノーザンのすべての障害の拾い跳び、エリア毎に障害をつなげて跳ぶのをできるだけ行いました。北日直前のクリニックに参加し、総合の選手をしておられた岩谷さんに障害を取り入れたフラットワークと、マンツーマンで野外の通しを見ていただきました。フラットワークでは輪乗りの中で内方姿勢と反対姿勢を交互にし、回転の中で低い連続障害を入れ、肋骨を柔らかくするようにしました。野外では幅の狭い障害と初めての障害で拒止してしまい、やはり不安は残りました。北日でもポータブル障害と幅の狭い障害で拒止してしまい、失権という結果になりました。

ベテランのログには、馬場や障害のコース走行、野外馴致、たくさんの経験をさせてもらいました。その恩返しというか、最後に結果を残すことができず本当に悔しく思います。ログは19歳と高齢なので競技は今年で引退です。来年からは下級生が障害の経験をすることや、新馬の野外馴致のリード役にまわります。今後もログが元気に働けるように見ていきたいと思います。うまくいかないことばかりだったけど、気難しいところも含めてログが大好きになった一年でした。ありがとうございました。

◆北魁号（トウカイフラッグ）◆

セン　サラ　青鹿毛
平成14年４月16日生
北海道新冠町長浜牧場産
父　ブライアンズタイム
母　トウカイティアラ
平成24年10月７日入厩

中　　一　輝

調教報告をさせて頂く前にこの一年結果が全く出せなかったことを指導部、ＯＢ・ＯＧの方々そして現役部員、馬責として一緒に頑張ってくれた得地、なによりフラッグ自身に申し訳なく思います。現在競技馬の少ない北大において全日学に出場し完走したフラッグは貴重な存在であるにも関わらず全日学出場はおろか北日のエントリーも出来ず北大の団体出場に貢献できないだけでなく小障害も回れなくなってしまうという多分過去にない位の失敗をしてしまったと思います。ずっと謝罪ばかりをしてもしょうがないのでこの一年間の取り組みを記させて頂きます。

以下
１、総合出場を目指して
２、北日を諦めて
３、その他
に分けて調教報告としたいと思います。

１、総合出場を目指して

昨年フラッグの担当となってから冬頃までのことは前回の調教報告に書かせて頂いたので省略します。まず春休みの間にＯＢの山川さんの紹介で那須トレーニングファームに合宿をさせて頂きそこで障害練習を繰り返し行わせて頂いたお陰で障害の随伴がある程度できバランスもましになったのか以前のように走られることが少なくなりました。

そして雪が融けてシーズンが始まる前に目標などを設定する際この馬は本来130cmのコースを回るのは厳しいのではといわれ高さが低い総合競技を目指してはと言われました。実際過去に全日学に先輩が出場した際には減点がかなりかさみ高さが届かな

い中、障害を壊しながら進むという感じで全日学の二走に挑戦するには難しいのかもしれないと考えました。そこからは総合競技出場も視野に入れた練習を行っていきました。北大では馬場の周りにあるタイヤ障害や穴、坂などをこまめに跳びとにかく野外障害に慣れさせようとしました。しかしここで比較的スムーズにいき多少油断したためノーザンでの野外馴致では散々でした。元々ビビりなところがあり野外では制御が効かなくなるのではと心配しすぎ人の体が強張り障害に吸い込まれるように人の体が前に行ってしまいました。元々ものを見るほうであるのに騎乗者も野外は初めてで全く助けられず邪魔をしてしまうというものでした。それを抜きにしても13歳という年齢、頑丈とは言いがたい馬体、走りやすい気性なども踏まえこの時点でやはり総合は難しいのかと思ってしまいました。

2、北日を諦めて

冒頭で述べたようにフラッグとのコンビではノーザンで90cmを一反で回るのがやっとというありさまでした。しかも試合を重ねるにつれどんどん悪くなり最終的に80cmを失権してしまうほどでした。なぜこれほど上手くいかないのかを考えた所

・馬の性質的にどうしてもどんどん前のめりにいってどうやっても跳べない踏切になる。
・上記のことがあるので手綱をしっかり持とうにも反抗して逆に前に行ってしまう。軽く持っても自分ではバランスを戻せない。
・左右の脚反応が悪く回転でペースが悪くなる。
・人の騎座が浅く指示を与えられてない。

などが挙げられました。しかしこれらを改善しようとＦＷから見直しても障害練習で崩れてしまうなどやはりうまくいきませんでした。春季大会の時点で先ほど述べたように失権が続き中津兄に代わりに出て頂けることになったのですがここでも準備馬場から拒止を繰り返すほどでありこれでは北日は無理ということになりました。

その後は馬の気分をリフレッシュさせることが第一ということで絶対失敗しない簡単な障害練習くらいに抑えある程度自信を付け岩谷さんクリニックに参加させてもらいしっかり馬を待たせることを確認して道大会に80cmで臨みましたが結果は同じく失権でした。結局失権を繰り返すままシーズンの試合を終えてしまいました。シーズン中、中津兄を始め多くの人に助言を頂けましたがやはり騎乗者の技術が一定のレベルでないと難しいものがあります。北大ではここ数年技術が未熟でもチーフに就かせてもらえていますがやはり一頭の馬にしっかり乗れる技術を身に付けることが必要だと感じました。

3、その他

最後にフラッグの今後について記させて頂きます。まずこれまで述べたように基本コントロールが難しくものも見るほうであり北日で安定して権利をとるというのは難しいかもしれません。しかし元々パワーはある程度持ち踏切をある程度合わせられしっかりとして騎乗者なら100cmは普通に回ってこられると思います。（場合によっては北日も完走できるかもしれませんが全日学という舞台では難しいかもしれないです。）元々数年前は障害に向ければ前進気勢を持って跳ぶことは出来ていたのでどのようにしてその気持ちにさせるかが課題だと思います。

唯一今年良かったのは例年に比べて怪我がなくコンスタントに運動ができたことです。毎日馬体管理をしっかりしてくれた得地には本当に感謝します。

今後は下級生の練習にも使いながらまずは100cmくらいまでのクラスを安定して走行することが目標になると思います。現在13歳でありまだ北大で活躍する道はあると思うので来年騎乗する寺元にはぜひこの目標を達成してもらいたいです。

この調教報告を見返すと失敗ばかりな一年であったと思います。考えても考えてもうまくいかず前の騎乗者に相談しようにも出来ずにいて自分の馬に乗っていた先輩に相談できる他の人がうらやましく思いました。しかしこの一年の経験は必ず来年活用します。

一年間いい思いをさせてあげられなくてごめんなさい。フラッグ。

◆北創号（サクラスペリオール）◆

セン　サラ　黒鹿毛
平成13年４月９日生
北海道日高郡新ひだか町産
父　サクラローレル
母　サクラヒーロー
平成18年６月24日入厩

中　津　裕　太

昨シーズンから引き続きスペに乗ることになった。昨シーズンの反省として、

・馬のメンタルの理解不足
・馬体管理の不十分
・基本的技術の不足

があげられた。すべてが完璧になったわけではないが、ある程度の改善はできたと思う。

<馬のメンタルに関して>

スペのメンタルの理解には最後の最後まで悩まされた。スペは良くも悪くもシチュエーションによってパフォーマンスが大きく変わってしまう。慣れきった北大の馬場では前進気勢がなく、かなり鈍い。ノーザンなどの試合会場では程よく動いてくれるようになるが、テンションで動いているだけで脚に反応しているわけではないので、前のめってただ手が強くなってしまう。ただ、本馬場に入ると、準備馬場での状態がかなり悪くなければたいていは飛んでくれるし、クロスカントリーでも最初の２，３個をリズムよく飛べばあとは障害に向けるだけで済む。どの馬でもこのようなシチュエーションによるパフォーマンスの差は生まれるが、その差を小さくするには、普段からメリハリをつけて人と馬との関係を築くことが大事だと思う。

一番改善しないといけないのは北大での運動だった。ただただ鈍い。北大の馬場で運動するときはピリッと集中してほしかったので、乗ってすぐの自由な常歩は馬場の外で行い、馬場ではすぐに手綱を短く持って運動するようにした。これを続けることで、馬場ではちゃんと運動しないといけないことを理解したのか、次第に脚に対して反応が良くなった。運動し始めは脚反応に重点を置き、細かい運動はせずに移行を多

めにしてハミにまっすぐ出てくることを意識した（駈足発進をした後、弱い駈足をするようであれば、２，３歩思い切りギャロップをさせるなど、できるだけシンプルで分かりやすく。よく調教された馬だからといって、静かにきれいに乗ればいいというわけではなく、人間が要求して達成できたら褒め、できなければさらに強く要求をするというサイクルは守らなければならないと思う。）。一方で、調馬索はほとんど行わなかった。理由は単純に「上手く回せないから」だ。回し始めてしばらくすると、ある程度反応も良くなるが、それでも鈍いと感じてしまう。要求をしても達成できず、人の言うことを聞かないで済んだと思わせるよりはやらない方がましだと思った。北大のレベルだと、できることよりもできないことの方が多いように感じる。できないことを要求し続けるよりは、できることを発展、工夫することでできないことを補うことも必要だと思う。

北大での運動のメリハリはある程度つけることができたが、大会会場の準備馬場でミスをして、肝心の本馬場で自信がないまま競技に向かうことがしばしばあった。顕著だったのが北日のフレンドリーの準備馬場で、競技直前での飛越の際にかなり遠目から飛びついてしまい、上手く随伴できず障害に対して恐怖心を抱かせてしまった。北日前は歩様が良くなくあまり練習ができず、ただでさえ障害に対して良いイメージを持っていなかったのに、恐怖心を抱かせてしまい、結果としてフレンドリーはＡオクサー、Ｂ垂直のダブルのＡで拒止されて落馬してしまった。北日のフレンドリーは追加可能だったので、ダブルは他の障害を飛んでリズムを作ってから飛ぶことにしてなんとかなり、障害に対する自信は二走の第二回走行になってようやく少し取り戻すことができた。総合では、クロスカントリーで踏切関係なく飛びつくことを思い出したのか、余力もどこからでも飛ぶ状態になっていて、終わってみれば二走、総合のどちらも優勝していた。とはいえ、準備馬場でのミスを防ぐ方法や障害に対する自信を取り戻す方法を考えなければ、全日では通用しない。そこで、出戸兄の紹介で自分が１年生のころから合宿などでお世話になっている、明治大ＯＢの柘植さんに北日での走行を見ていただき、アドバイスをいただいた。

やはり障害に対して自信が無くなっていて、飛びが窮屈になって体も使えなくなり、それによりまた自信が無くなるという悪循環にはまっていた。そこで、単発の障害を踏切をつけて飛ぶことで自信を取り戻させることを勧められた。障害の真下から30㎝手前にグランドバーを置き、そこから３ｍの位置に踏切バー（①）を置く。その踏切バー（①）に合わせられずミスする可能性もあるので、そこから６～7.5ｍ手前の位置にバー（②）を置く。最初は障害前のバー①をまたいでも障害を飛ぶ時のはたきが弱く、ハミにしっかりと出てこず、着地後の一歩目が出てこなかったので、100㎝くらいの垂直の時に踏切バー①を跨いだ瞬間に脚と鞭を使って強くはたかせて、バーを落とさせた。一度やると次からは静かに乗って待っていれば、勝手に強くはたくようになり、着地後もよくなった（＊スペは強く向かうようになってくれたが、すくんで

自信を無くしてしまう馬もいる。馬の状態、騎手のレベル、その日の天気、馬場のコンディション。条件が整っていなければやらない方がいい。）。このような調教はセオリーとは言えないと思うが、ショック療法として馬のリアクションをよく見て、十分に失敗しない状況を作れば、成功した時の効果は大きい。実際に踏切バーを置いてトレーニングするようになってからは、障害に対して強い駈足で向かえるようになり、自信を取り戻し、体も使えるようになることで状態がかなり良くなった。バー②の位置も最初は6.5mくらいでちょうどよかったが次第にストライドが大きくなり、最終的には7.5mにして障害前の３歩を１ストライド3.6mの駈足で向かえるようになった。高さも130cmにしても余裕を持つことができた。

秋季大会での準備馬場ではグランドバーを30cm手前、障害の真下から６m手前に踏切バーを置くことでミスなく競技に向かうことができた。しかし、全日では本馬場の隣の準備馬場では踏切バーを置くことはできず（他の馬が必要としていないので、どかされて毎回位置が微妙に変わってしまう）、地下場道を通る前に大体の準備運動を終わらせることにした。地下場道を通る前は普段通り、自信をもって飛んでくれるのだが、いざ最終確認で移動後に飛ぼうとするとかなり躊躇してしまい、何度か止まられてしまった。踏切バーが無ければ、自信をもって準備馬場で飛ぶことができなくなってしまったのかもしれない。結局、ミスしても怖がらずに飛ぶであろう110cm程度の垂直を飛んで、本馬場に向かうことになった。本馬場に入れば、さっきまでの躊躇はどこに行ったのやら、いつもより自信をもって飛んでくれた。自分が焦っていた第一走行目は減点20、準備馬場が悪かろうがスペを信じて焦らなかった第二走行目は減点８で終えることができた。総合でも同様に、できるだけ北大やノーザンでやっているいつものパターンで準備運動をして、試合に臨むことで大きなミスはしなかった。調教審査は56.4％で減点65.4、クロスカントリーはタイム減点9.6、障害は１落下で減点４、トータル減点79という内容だった。緊張して暴れだしてしまう恐れのあった調教審査の日は、朝に曳馬ではなく、７割程度の準備運動をしてほぐし、冷えることのないよう馬着を着せて、本番前に軽く運動するようにした。いつもよりは緊張していたが、暴れ出すほどではなかった。駈足区間でのミス、クロスカントリーでのロングルートの安全策×２、これらはただの言い訳に過ぎないけど、総合は乗り手次第で間違いなく入賞を目指せる。

ノーザンなどの試合会場では、テンションが上がって高い障害を飛んでくれるけど、北大では十分に動かせていない馬をしばしば見る。そのような状態ではいつかボロが出てしまう。道馬連60年史の白井さんの言葉を借りるなら、ホームでできないことは試合会場でもできない。北大で130cmのコースをやる必要はないが、130cmのコースを回れるくらいの質の良い駈足を作り、80、90cmくらいのコースを完璧に回れるコントロールを身につけないといけないと思う。普段の北大でのトレーニング、馬との意思疎通が、いかに大事か身に染みたシーズンだった。

＊ストライドに関して

ストライドに関しては、北大での前進気勢の無さと自分がしっかりと動かせていないこともあり、平芳兄から引き継いだ時よりも小さくなっていた。それの改善としては酪農ＯＢの梁川さんからアドバイスをいただき、3.6ｍの駈足のキャバレッティーをバー６本くらいで作って、強制的に大きなストライドの駈足をさせた。トレーニングを始めて数日は距離が届かず、手前を換えたり、苦しそうだったが、しばらくすると１個目のバーに少し詰めてアプローチし、中で軽くツーポイントしても余裕で届くようになった。130㎝くらいを飛ぶには、肩が楽に動かせる後輪駆動の大きな駈足が必要になる。

柘植さんに勧めてもらった単発の障害トレーニングをやり始める前、障害トレーニングはほとんどコンビネーションをしていた。平成２２年度部報の出戸兄のゲネシスの調教報告で紹介されていた①と②のコンビネーションをしていたのだが、いずれも結構短めの距離設定になっている。（②に関してはＪＲＡのクリニックの報告に詳しいやり方が書いてあるので、それを参考にしてもらいたい。）コンビネーションはミスしないで高めの障害を飛ばせるものとして行っていたが、北日後からは、柘植さんにアドバイスをいただき、大きなストライドで馬が勝手に飛んで行くことを確認するために行うようになった。①のコンビネーションの距離の６を6.5、９（8.7）を10.8、6.3を7.3に変えて、高さは110㎝程度。全日前にはコンビネーションの後半になるにつれ、脚を強く使わなくても届くようになっていた。

＜馬体管理に関して＞

スペの体は不同蹄などからか、年々悪くなっている。今年は特に左ともの動きが悪くなり、左手前の輪乗りなどをしていると、後ろがイーブンではなくなり、リズムがおかしくなることがあった。悪いからといって休ませているだけでは良くはならないので、毎日の運動の質を上げ、短い時間で動かす必要があった。

シーズンの始めは、昨年のように最低だった。ほぼ毎日びっこ。障害などもってのほか。冬の間は疲労をとってほしかったので、ほとんど常歩しかしなかった。良い状態でスタートダッシュを切るには、もう少し運動をした方が良かったかもしれない。とはいえ、シーズン中にちゃんと調子が上がってくるのは知っていたので、我慢して無理しすぎない程度の簡単なＦＷ続けた。シーズン終盤の単発の障害で体を使うようになってからは、しこりのようなものが取れたのか、歩様が悪い日が少なくなっていた。

前肢を上げるストレッチと腰のマッサージは毎日やった。シーズンが終わるころには前肢は以前よりもだいぶ上がるようになり、ストレッチの効果が良く見られた。放牧は、走らなそうな天気が穏やかな日で、走りだしたらすぐに捕まえられる練習後１

時間程度にするようにした。走られると２，３日ダメージが残ってしまい乗れなくなることもある。頻度は週に１回程度だったが、ストレスが少なかったのか、今年はほとんど走ることはなかった。

大会では、秋季大会以外はフレンドリーと土曜日の競技だけ出た。秋季大会のころには調子が上がってきていて、質の高い運動が継続できていたので、３日間競技に出ることができた。大会の翌日は完全な休みにするのではなく、ほぐす意味で普通にＦＷをした。せっかく練習の無い月朝をつぶして馬装をしてくれたり、ビデオを撮ってくれたサブの下級生には感謝している。

上記以外にも温浴、障害練習後の水冷、肢巻、蕁麻疹がでないようにロールではなく、コンパクトの麦稈を使う、運動や太り具合に合わせた飼料管理などを行った。その結果、シーズンを通してほとんどトラブルを起こすことなく継続して運動ができ、ほぼベストな状態で全日に臨むことができた。

＜基本的技術に関して＞

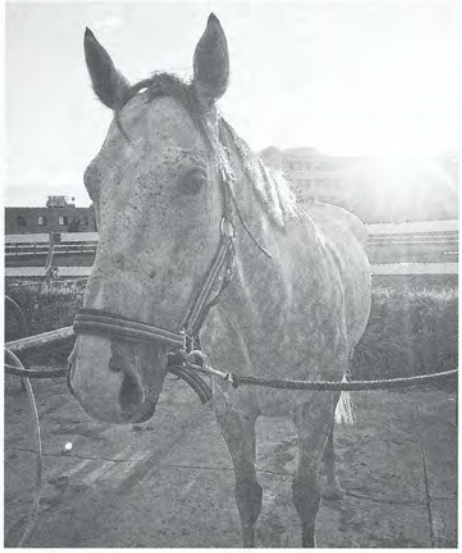
不足な部分はあるが、不注意な部分が大半を占めていたように思う。例えば、①拳の位置。頭を下げさせるのを意識しすぎて、手前で使いすぎていたり、下に押さえつけてしまっていたり。②上半身の姿勢。下を見過ぎて背中が丸くなってしまったり、輪線運動で内に傾いてしまっていたり。③目線。下を見ていたり、次の障害を見るのが遅かったり。などなど、注意ひとつ、イメージづくりだけで変わる部分は山ほどあった。また、それらは馬の上でのバランスが改善され、余裕が生まれればより注意しやすくなると思う。130cmを飛ぶ時でも余裕をもって待っていられるバランスが昨年よりはできていたので、高い障害のコースでも余裕を持つことができた。

＜最後に＞

トレーニング方法は多くあるが、人にとっても馬にとっても分かりやすく、シンプルなトレーニングが一番だと思う。北大ではそれ以前に、しっかりと曳馬などで簡単な人と馬との意思疎通ができていること。馬の上でのバランスができていること。当たり前のことを当たり前に積み重ねていくことが最終的に試合でいい結果を出すことにつながると思う。

最後になりますが、今まで指導をしてくださった多くの方々には感謝しております。また、直接指導を受けることはあまりありませんでしたが、スペに関わった多くの方々の努力のおかげで、現役最後の年に全日で戦うという貴重な体験をさせてもらえました。北創の名の通り、スペは北大の新しい世代を創り、担っていると思います。今後も北大のエースとして活躍することを期待しています。もうしばらく頑張れスペ！！

◆北騅号（アップヒルティガー）◆



セン　サラ　芦毛
平成20年３月10日生
米国/R&R King Stable
父　Unbridled's Song
母　King Shooting Star
平成24年９月15日入厩

寺　元　　純

北騅号（以下アヒル）の馬責を務めておりました、２年目の寺元純と申します。アヒルはこの１年間は笹原兄による調教、寺元が馬責として馬体管理を行っていました。ここでは笹原兄から聞いたことを含め、寺元による調教報告とさせていただきます。

まず、前提としてアヒルは脚が丈夫でない馬であること、また、一度障害調教で失敗した過去があることを述べておきます。

この１年間は、その丈夫でない脚を気遣いながらの調教でした。「歩様が悪くなってから何とかするのではなく、悪くならないようにする」方針でコンスタントな調教を目指しました。具体的には、毎週外乗を入れてリラックスさせたり、馬休前日翌日には激しい運動を行わない（極端に言うと常歩のみだったり）というルーティンを組んでいました。

また、生まれつき後肢に歪みがあるため、右後肢内腿を毎日30分程度マッサージしていました。

また、障害調教を失敗し、一からやり直す1年になったため、飛越練習に関してはかなり慎重に行ってきました。７歳という年齢もあり、慎重に行うべきとの考えから目標は、「秋季大会までに上級生で60cm経路」とかなり低めに設定してありました。

アヒルは繊細な馬であったため、まずはその気性をコントロールすることが必要でした。昨年冬はかなり張っていたこともあり、引き馬中や運動中に暴れることも度々ありました。しかし、放牧を繰り返すことでその兆候は次第になくなっていきました。毎日半日は放牧に出し、リラックスさせてきました。

春になってからは本格的な調教を再開しました。５月の半澤杯でジムカーナ競技にエントリーしましたが、強風であったことや、他のクラブの馬などが来ていたこともあり興奮してしまいました。（結果はスタート前制限時間オーバーで失権）

口向きが悪いのでまずは口向きを直すように、輪乗り中心の調教を行いました。また、祖父江システムをつけて調馬索を行い、コンタクトのある状態に慣れさせました。騎乗中も輪乗りでの運動を続けました。

障害調教は単発飛越から再開しました。障害前後2.7mのところに横木を置き、飛越させました。飛越後に走る癖があったので、放棄手綱での飛越も行いました。また、前進気勢を失わないよう、馬が飽きたり反抗しないうちに運動を終えていました。また、ペソアシステムを用いた調教とライン練習も行いました。

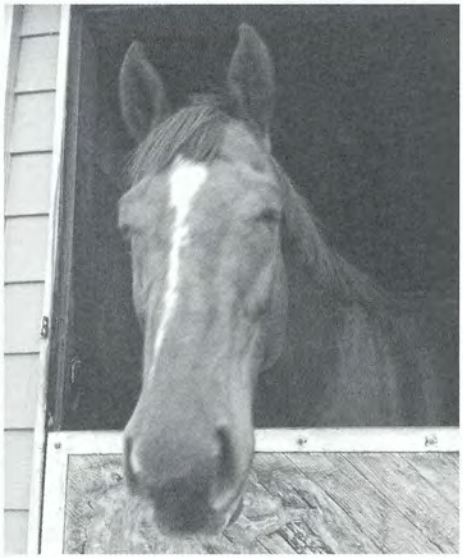
丁寧に調教を進めたおかげで、障害飛越はかなり良くなりました。北大でコース走行を重ねた後、８月の道大会で久々のノーザンでの大会に出場しました。笹原兄が60cmに出場しましたが、落ち着いて経路を回ってくることができました。

この道大会の結果を受けて、回る経路の高さを少しずつあげていき、市民大会では中津兄が70cmに、北大ホースショーでは中津兄が80cmに、寺元が60cmに出場しました。当初の目標より上のレベルに達したことと、馬術を始めて１年半の自分でも回ってこれる程度の馬になったことは来年以降に繋がると思います。

笹原兄が来春に就職で離札することになり、アヒルの調教は中津兄に引き継いでいただくことになりました。また、チーフは２年目の高橋に代わることになりました。冬以降は高橋と中津兄による調教を続け、2年後3年後の北日の二走を目指すことになります。高橋は短期の目標として、来年の秋に100cmを完走することを掲げています。

末筆ながら、現役引退後もアヒルの調教を行っていただいた平芳兄、笹原兄にこの場を借りて感謝申し上げます。

◆北鷹号（シュガーシャック）◆



セン　サラ　栗毛
平成21年２月24日生
北海道勇払郡安平町産
父　アドマイヤドン
母　メイプルシロップ
平成26年６月14日入厩

上　谷　丹　里

１年目の11月上旬から馬責としてシュガーシャックを担当させていただきました。シュガーシャックは、馬格もよく、昨年度入厩した当初から、未来のエース馬として期待されてきた新馬です。そのため、馬責として、ＯＢの平芳兄や小山兄による調教に携わり、近くで見て学ぶ機会を得られたことは本当に幸運だと思っております。シュガーシャックの調教は、私が進めてきたものではありませんが、1年間調教の様子を見て得られたものと今後の展望について書かせていただこうと思います。

まず、新馬の調教を行う上で、先輩方が最も留意されていた点は、馬の視点に立った調教のわかりやすさであると考えております。担当について間もない頃のシュガーシャックは、私には曳馬をすることすら難しく、当時２年目の先輩が曳いても暴れて放馬させてしまうことがあったほどやんちゃでしたが、平芳兄の調教により徐々に下級生の曳き馬で暴れる回数は減っていきました。内容としてはとてもシンプルなもので、曳馬をする際にいくつかのルールを徹底させるというものでした。１つは、手を挙げることを停止の合図とし、人が手を挙げてから止まるということを繰り返し、馬がルールを理解したところから徐々に手を挙げることをやめることで、人が止まれば馬も止まるようになっていきました。２つ目は、一定の距離を保つということで、馬が近づいてくるということは馬になめられていることが原因であり、それを放置したり、馬のほうが人より前を歩いたりするときに暴れられてしまうため、最初の距離から近づけば叱る、後退させるということを一貫して続けることで、下級生でも曳馬ができるほど落ち着いてきました。一度にたくさんのことを要求せずに、馬の理解が追いつくスピードで丁寧に調教を進めていくことが良い結果につながるのだと感じました。

昨年度のシュガーシャックの最終成績は、ステップアップジャンピング（60cmクラス）を障害減点０での走行でした。今年度の小山兄による調教では、100cmクラス以上のコース走行は行わず、特に80cmクラスでの走行内容を向上させていくことに重点が置かれ、また、野外馴致も少しずつ始めていきました。もともと脚を壊して競馬を退いた馬でもあるため、大会２日目・３日目など後半に行くにつれ跛行による棄権などが出てきてしまい、思うように調教を進めることができなかったということもあり、調教の進度としては慎重な部類に入ると思います。また、経路中コントロールの中から外れてしまうことが多かったり、反対に前に出しにくかったり、まだまだ慣れない跳びが見られたりといった問題点があり、高さを上げていくことよりも、それらの問題を解決し、比較的低いクラスの経路を確実に回ってくることを重要視してきました。具体的には、障害練習においては燕麦を使用したバウンスや障害間を少し狭めたコンビネーションでバスキュールの向上などを図り、ノーザンでの野外馴致以外にも、馬場の外の穴やタイヤ障害の拾い跳びを行いました。また、フラットワークや調馬索では、脚反応の向上や後肢の踏み込みを深くしていくために、前肢旋回などを取り入れた運動や祖父江システム、ペソアシステムの利用などを行っていきました。結果改善が見られた点や見られなかった点などは、シュガーシャックに限らず、これからの新馬調教に生かしていくために、部員同士で情報共有の機会を増やしていくことが重要であると思います。また、先ほどの、馬にとってわかりやすい調教にも通じますが、褒める基準、叱る基準をぶれさせないことと、それぞれを行うタイミングを逃さないことが新馬に騎乗する際には必要であると感じました。

今現在の調教ですが、代替わり後の昨年11月中旬から、中津兄にお願いして騎乗していただいています。今後についてですが、引き続き総合・二走の両方を視野に入れ、これまでＯＢの方々中心に進めてきていただいた調教を現役部員に引き継いでいく年にしていきたいと思います。また、来年度は２・３年後の北日を目標に、昨年小山兄に進めていただいた野外馴致や100cm以上クラスのコース走行なども行っていく必要があり、もうしばらくはＯＢの方々の協力を仰ぐことになってしまうとは思いますが、現役部員が主体となって調教を進めていく体系をつくっていけるよう、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

◆北咲号（チェルシー）◆

牝　中半血　栗毛
平成16年５月20日生
北海道標津郡中標津町産
父　マディクシー
母　快華
平成26年10月７日入厩

中　津　裕　太

昨シーズンの終わりにメインフィールズから入厩し、自分が担当することになった。基本的な調教はほとんどされていて、やるべきことは北大の環境に合うようにしていくこと、ダイエット、といったことだった。

この馬の特徴として、

・神経質
・賢い
・とても軽い、反応が良い
・肢に不安がある

ということが挙げられる。

乗る以前に、頭絡を付けられるのが嫌い、腹帯も嫌いで、下級生では馬装ができない。嫌いだからといって人が遠慮しながらそわそわ馬装をすると、チェルシーもそれを感じて余計に馬装しにくくなってしまう。ただ、馬装という問題をスムーズにクリアできるくらい人と馬との関係性を築いて、乗るときにもそれを崩さなければ、今のところ高さは100cm以下だがほとんどの障害を飛んでくれる。

シーズンが始まってしばらくは他の馬と同じように障害の練習をしていたが、半澤杯２週間前に右前が跛行してしまった。前々から調子の悪い日があり、装蹄を少し変えてもらっていたりしていたが、良くなる気配はあまり見られず、しばらくＦＷで様子を見る日が続いた。結局、障害を始めることができたのは７月になってからで、７月末の国体予選で初めて試合に出すことができた。

６月にはフロンテア乗馬クラブでＪＲＡの北原さんのクリニックに参加し、普段のフラットワークで求めるべきことを確認した。軽く、反応が良すぎることもあり、基本的に運動が速くなりがちで、馬が勝手にペースを決めている状態だったので、少し馬を待たせて人間の求めるペースにすることが大事だと分かった。８月には中野さんクリニックに参加し、この馬で障害をやる際に注意するべき点を確認した。コンタクトを強く取られると巻き込んで頭頚がロックされた状態になってしまい、自由に体が使えず、ストライドが短くなってしまうので、シート、コンタクトは軽くしてなるべく馬が自由に飛べる状態を作る必要があった。いずれのクリニックでも、チェルシーのポテンシャルの高さ、上手い人が乗ればすぐに良くなる理解力の高さがよく分かった。

８月のクリニック後は特に調子が良くなったが、試合後にまた跛行してしまった。レントゲンを撮ってもらったところ、球節の部分が骨折しているということで、しばらくの休息を余儀なくされている。

ポテンシャルは高く、調教も進んでいるが、肢に問題を抱えている状況なので、その問題が解決できなければ北大で競技馬としてやっていくのは厳しいと思う。新馬が多く、良いリアクションをしてくれる馬が少ないので、高い障害は飛べなくとも、チェルシーから学ぶことは多い。来シーズンも調子を見つつ、今後北大で活躍する方法を模索してもらいたい。

離厩報告

◆ロベルクランツ号◆

セン　サラ　鹿毛
平成21年３月27日生
北海道浦河町富菜牧場産
父　アドマイヤムーン
母　アルフェッカ
平成27年５月31日入厩
平成27年11月29日離厩

佐　治　ひな子

まず初めに、おそらく多くのＯＢの方はご存じないであろう、ロベルクランツ（以下ロベ）について説明させていただく。ロベは、今年の５月に浦河のカケハムポニークラブ様より、期限付きの貸与馬という形で入厩。おとなしい馬で、主に、下級生の練習馬として鞍数を稼いでもらうことが目的だった。そして、同じく今年の11月に当初の契約通り期間満了ということでカケハムポニークラブ様にお返しした。

私が、ロベのチーフになったのは、８月の後半だった。それまで、誰か特定の一人が乗るわけではなく、主に下級生が部班に混ざり、ポコポコ乗っていた。向こうでは、ｆｗのみで、障害も跳んだことはなかったのだが、いざ跳ばせてみるとあっさり跳んでしまい、一見問題ないように見えた。しかし、今考えてみると、その長所が逆に失敗のもととなったのだろう。このように、新馬にしては簡単に障害を跳ぶために、初めから、まだ経験が浅い下級生の練習に使われてしまい、まだ跳び慣れていない馬の大きな動きに、当然下級生がついていけるわけもなく、常に邪魔をしてしまった。また、馬体が柔らかく、少しでも障害にまっすぐ向かえないとそのまま体を曲げて逃げようとするところがあったが、それをきっちりと通らせることができず、障害前に逃げることを覚えさせてしまった。ｆｗでは、もともと脚反応があまり良くはなく、扶助に対して鈍感で前に出にくいところはあったが、それでも当初は素直に前に動いていたのが、拍車を刺してしまうなどの雑な扶助を出していたことにより、脚を使うと前に出るどころか、反抗して耳を伏せるだけ、というひどい状態になってしまった。

人に対しても不信感を抱き、馬房の前を通るだけで耳を伏せて跳びかかって噛んでくるような状態だった。

９月の代替わり直前になり、さすがに、お借りした馬をこのように悲惨な状態で返すわけにはいかないだろう、ということで、新馬を担当したことがあり手が空いていた上級生である私に役目が回ってきた。お返しするまでに、ロベをせめてもう少しマシな状態にする、というのが私の役割だった。私も決して調教の技術があるわけではなく、経験としても、ロミオを半年間担当してきただけで、豊富な知識を持っていたわけでもなかったため、正直自信は少しもなかったが、離厩までの目標として、大きく以下の２つのことを念頭に置いた。

・脚による推進扶助をきちんと理解して、前に出ること。
・障害を安定して跳べるようになること（60㎝程度。）

結論から先に言わせてもらうと、二つ目の目標は90％達成した。しかし、一つ目の目標については、最後まで達成することができなかった。

これらを達成するためにまず私が行ったのは、乗って脚を使って前に出たら褒めるということ、そして、障害に向けたら必ず跳ばせるということだった。最初の一か月はこれでどんどん馬が良くなった、ように見えた。クロス10個ほどの経路を反抗なしで回ることもできた。しかし、10月半ばくらいから、再び脚に反抗するようになった。駈歩をしていて、後ろ蹴りをしてしまうこともあった。この原因は、恐らく、ある程度しっかり動くようになり、馬体も口向きも柔らかかったロベに、自分がハミを受けることを要求してしまったことであろう。ロミオの調教報告でも触れると思うが、ロベの前に半年間乗っていたロミオは、かなり硬い馬で、内方姿勢や馬が譲った状態を作ることが難しく、まだハミ受けができた試しがない自分は、それがやりたくてしょうがなかった。そんな状況があり、ついつい受けた形を簡単に作ってくれるロベで試してしまった。結果、手は単に馬の口の動きを邪魔していただけで、ロベは前に行きたくても行くことができず、巻き込んだ形を作るようになった。脚による推進扶助と手による停止の扶助という二つの矛盾した課題を突き付けられたロベは、脚を使っても前に出ない馬になってしまった。もう一つの原因は、軽速歩で、手を馬の口に合わせて動かせていなかったことだろう。例えば、障害を跳ぶ日は、ハミ受けなど考えずに、とにかくしっかり動かそうと馬の動きについていこうとしても、それが全く足りずに手で邪魔をしていた。これは最近になって初めて気付いたことだが、軽速歩では手の曲げ伸ばしをして馬の口に合わせるが、かなり大げさにやってもやりすぎてコンタクトがゼロになるということはなく、むしろそれによってやっと馬はのびのびと動けるようになる。

こんなロベだったが、障害になるととても素直で、最初は避けようとするが、ちゃ

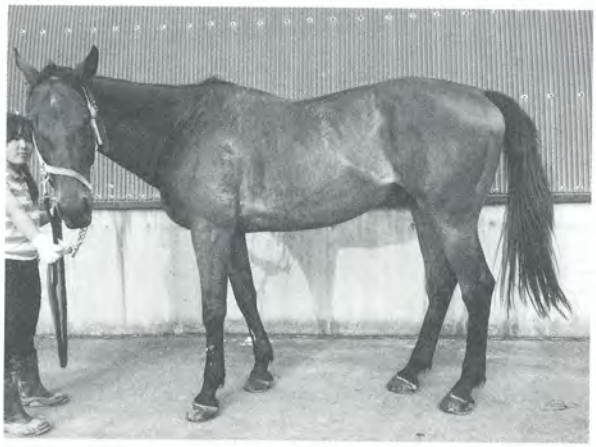
んと前に出しまっすぐ入って跳ばせれば、次は反抗せず自分から障害に向かっていった。しかし、自分はここでも馬の邪魔をして、飛越時に随伴ができず、遅れたり、上にかぶさって先飛びしたりの繰り返しだった。最終的に、60cmの経路を回るという目標も、私がずっと上で邪魔をしながらも、最初にいいペースを作れば、そのあとは自分から跳んで、避けようとすることもなく完走することができた。これを考えると、上で人が不安定に乗っても、60cmを帰って来られる馬にはできたということだろう。求めたレベルには十分達していた。

馬の調教は、手入れのときから始まっているとはよく言われるが、ロベを担当してこのことを痛感した。ブラシはもちろん、裏掘りでさえ嫌がるロベに対して、絶対に叩いて叱らないということを心掛けた。嫌がるそぶりを見せたら少しやり方を変えるようにした（ブラシの強さを変えてみたり、場所を変えてみたり。）一方的に嫌なことを求められて、我慢できる馬もいるが、我慢できない馬もいる。人と同じで、我慢の限界は馬によって様々だ。こちらが少し配慮すれば、馬は自分の気持ちが無視されているのではないということを知り、少しずつ嫌なことも我慢してくれるようになる。首筋のあたりにブラシをかけるときに気持ちよさそうにする場面がみられたときは、素直に嬉しかった。

最後に、11月の離厩の日まで、自分がロベに対してできたことは多くはなかった。むしろ悪影響を与えてしまったことが多い。しかし、ロベの方は自分に、馬と関わるにあたって、とても大事なことを学ばせてくれた。半年間という短い時間だったが、お礼を言いたい。ありがとう、ロベ。

入厩報告

◆北秀号（サクラロミオ）◆



セン　サラ　鹿毛
平成17年３月22日生
北海道日高郡新ひだか町新和牧場産
父　サクラローレル
母　サクラジュリエット
平成26年３月11日入厩

佐　治　ひな子

ロミオは、昨年２月に新和牧場より入厩したが、もともと強くはなかった肢を悪くしてしまい、競技馬を目指すこと、練習馬として鞍数を稼ぐことのいずれも難しいだろうと判断され、10月にフロンテア乗馬クラブに離厩した。しかし、今年３月、昨年同様に新入生が多く入部すれば練習馬が足りなくなるため、すぐに乗れる馬が必要だということで、フロンテア乗馬クラブより再び入厩した。フロンテアでは、日中は広い放牧場で過ごし、夜は暖かい厩舎で寝るという生活を送り、心も体もリフレッシュされ、歩様もよくなっていた。このような学生のわがままを聞き入れてくださったフロンテア乗馬クラブの方々には、とても感謝している。

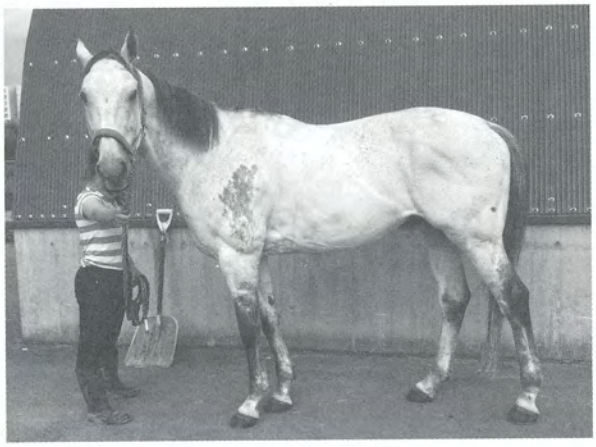
ロミオは、素直な馬で、人の扶助に良く反応した。ただ、背中や腰の筋肉が少なく、いつも頭を上げた状態で運動していたため、とても動きが硬く苦しそうだった。そのため、まずは1年生がたくさん入ってくる前にシャンボンを使った調馬索運動を行い、低伸運動をさせた。頭を前下方に伸ばし、ゆったりした状態で推進することにより、後肢が段々と踏み込んでくる。これによって、項から背中、腰に掛けて正しい筋肉を発達させることができる。シャンボンは調馬索運動で使用される他の道具と異なり、馬に対して後ろ方向への力をかけないので、馬は自由に歩度を伸縮することができる。ロミオについては、あまり前進気勢が旺盛なわけではなかったため、馬の推進力を邪魔しないシャンボンはあっていたように思う。シャンボンについては、『障害馬術』に詳しく書かれている。シャンボンによって、ロミオは頭を低伸した状態で運動するようになったが、しっかりと馬を推進できていないと、頭は下がっても後肢が後ろに逃げて、単に前のめりの運動をするだけになってしまう。自分が索を回すと、ちゃんと推進できていないことが多く、このような状態になってしまうことが多かったように思う。何度か、中津兄に索を回してもらったときには、しっかりと馬は推進されて、後肢が馬体の下に踏み込み、その中で馬自身が楽な状態を見つけて頭を前下方に伸ばしていた。しかし、結局最後まで、自分ではその状態を作ることができなかった。

騎乗時に気を付けたことは、前方向への脚扶助に対して、馬が常に敏感であるように、そして、減却がスムーズにできるようになることの二点であった。基本的にロミオに乗るときは部班で乗ることが多かったので、歩度の伸縮をやりすぎと思うくらいはっきりと行う、移行を多く取り入れる、などを行った。一つ目の、前進扶助に関しては、ある程度達成できたが、減却に関しては、自分の技術の問題もあり、全く向上することができなかった。これは、障害練習をしていたときに、市川先生にも良く指摘していただいたが、半減脚が全く使えていなかった。

ロミオはもともと特に速歩の歩様がおかしく、自分は、それを悪化させないように、と頭の片隅でずっと考えながら、索も騎乗も行っていたように思う。索を回すときにも、あまりきつい運動をするとまた跛行するかもしれない、と考えてどこかで馬に遠慮をしていた。今考えてみると、この中途半端な考え方が、馬のことを考えているようで、実際は馬にとっても良くなかったのではと思う。馬に対して人が何かをするということは、馬は人が求めた動きをしないといけない。そして、人は教えるものについてきちんとした知識とイメージを持っていなければならない。当たり前だが、人は、馬に教えること以上の勉強が必要だ。その前提に立って話をしないと、馬の調教は成り立たなくなってしまう。結局、やろうとしたことができなければ、馬は何の効果を得ることもできず、無駄に動かされ、疲れるだけである。その時間は全くの無駄なのだ。やることをやって、それができれば馬が飽きる前に、疲れる前にパッと終わらせる。これが理想だろう。馬の調教を行う人は、必ずこのことを念頭に置かなければならないと思う。

障害については、バスキュールが良く、この点については、スペとロイヤルと同じローレルの子であると改めて感じさせる。ただ、速歩飛越ではうまくいっても、駈歩となると、馬が駈歩自体苦手なのか、発進してすぐに前のめって速くなってしまい、突っ込むように障害に入ってしまうことが多かった。しかし、人が焦らず、発進してから馬に持っていかれないように同じ姿勢で乗れるようになり、良いペースで障害には入れれば、単発だけでなく、コンビ―ネーションでもよい飛越をすることができた。自分は、ロミオに乗ることによって、駈歩で自分のペースを作ることができるようになった。しかし、跳んだ後の伸びた馬を起こすという動作が自分には難しく、障害後に走られてしまうこともあった。これは半減脚が使えないためだろう。人の技術が足りなかったために、馬に悪いことを覚えさせてしまった。それでも、今シーズンは最終的に、秋季大会で中津兄が乗り、80cmクラスを完走することができた。また、部内試合では、一年生がクロスの経路を回ることもできた。ただ、下級生の障害練習に使うのが早すぎたためか、しっかりと前に出ていないまま単発障害を跳んだりしたためか、あるいは飛越中に騎乗者が邪魔をしてしまったためか、頭を上に反ったまま背中を硬くして跳ぶようになってしまい、せっかくのバスキュールが悪くなってしまった。来シーズンは、中がロミオを担当してくれる。焦ることなく、まずは中が100cmクラスを確実に、良い内容で回れることを目標にしたらいいかと思う。

◆北響号（カノンコード）◆



セン　サラ　芦毛
平成18年２月25日生
北海道勇払郡早来町ノーザンファーム産
父　クロフネ
母　ポップス
平成27年４月７日入厩

杉　田　　優

カノンコード号はノーザンホースパークから４月に入厩しました。元々ノーザンで牧練に使っていたこともあり入厩時から下級生がＦＷを行うことができるほど大人しいです。

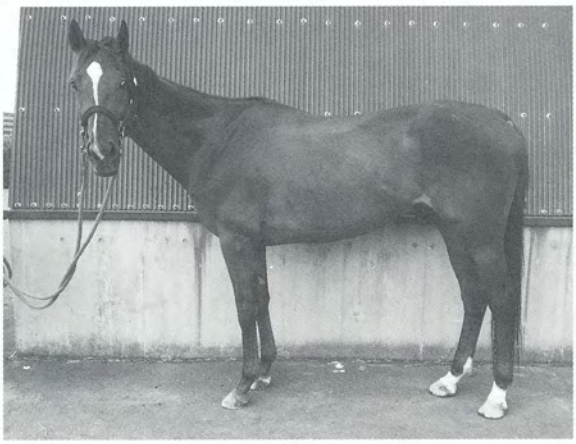
反面障害は全くやっておらず北大に来てから障害調教を始めました。そのためまだ飛越がスムーズにいかないことがあり特に詰め物がある障害はかなり見て跳ぶので今後騎乗する人はその点に気を付けてもらいたいです。

調教については入厩からしばらくは江口兄に乗って頂いたりしてある程度の期間の後は自分が主に騎乗しその様子を江口兄に見て頂くという形で進めていきました。試合にはノーザンで60cm、北大で70cmくらいの経路を回ったくらいでまだまだ経験は足りません。しかし初期に江口兄に調馬索でのしっかりとした運動や輪乗り上でのＦＷという基本をしっかり調教して頂いたお蔭でＦＷの基礎はある程度出来上がりました。

今後の課題としてはまだ左右の脚反応が悪く経路の中でも左右によれてしまうこと、前に出すのにある程度強い推進が必要であること、そして前述での物を見てしまうことなどが挙げられると思います。

最初に述べたように基本は大人しいので数年後には競技に出場するだけでなく下級生の練習にも大きく貢献するような馬になっていることを期待します。

◆北汐号（タイダルベイスン）◆



セン　サラ　栗毛
平成22年３月６日生
北海道日高郡新ひだか町タイヘイ牧場産
父　アグネスタキオン
母　ワシントンシティ
平成27年７月９日入厩

杉　田　　優

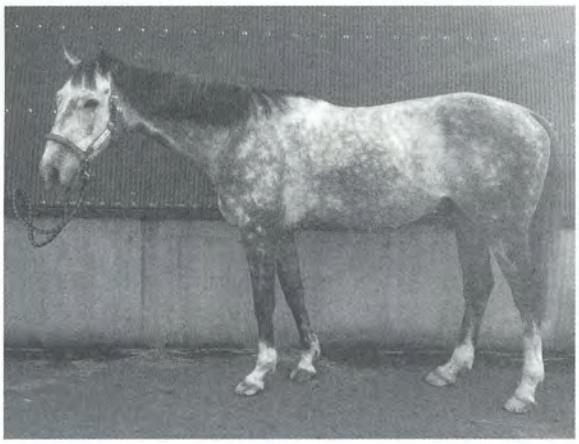
馬責を11月まで担当させていただいた２年目の杉田です。

タイダルベイスンは７月９日に獣医の川崎さんの紹介により、ノーザンホースパークから入厩いたしました。来た当初からおとなしく、飛越能力もありそうです。現在は平成24年卒のＯＢである江口さんに調教をお願いしています。

障害は、今シーズンで単発を70cmまで跳び、キャバレッティ、コンビネーション、バウンスなど練習を一通りこなすことができました。ただ、肩周りの筋肉が発達しており前のめりやすいことに加えて、周りに敏感でコントロールが難しいことが難点です。馬責につき、新馬調教を間近で見る中で新馬と接することの難しさを実感し、馬との関係を作る大変さを改めて知りました。この経験を少しでもこれからの自分が乗る馬に生かしていきたいです。

北大馬術部で将来活躍する馬になってくれるよう、これから現役部員にできることを増やしていき、やっていきたいです。

◆北稜号（ダノンアンチョ）◆



セン　サラ　芦毛
平成19年２月18日生
北海道勇払郡安平町追分ファーム産
父　Unbridled's Song
母　アンチョ
平成27年９月２日入厩

髙　橋　春　南

アンチョは縁あってノーザンからいただきました。ノーザンの前には、乗馬クラブクレイン、関西の大学馬術部にいたことがあるそうです。まずはアンチョの紹介をしたいと思います。

体は北大で一番大きく、のんびりとした性格です。食べることが大好き。食べ物を持っていないか、よくポケットのあたりをもぞもぞしてきます。いつも何か面白い事がないか探しているような素振りを見せます。好奇心旺盛です。人が好きで、馬房を開けると近寄ってきて、顔をすり寄せてくるようなかわいいやつです。基本的に落ち着いていますが、いつもと違う雰囲気の所では興奮しやすい面があります。皮膚が弱くケイクンになりやすいのと、切り傷などの小さい怪我が多いことは気を付けなければなりません。

私は、アンチョが北大に入厩してから10月末まで担当させていただきました。アンチョは動いていないと肩から張って逃げてしまう癖があります。常に顔が左を向いていて、回転も難しく感じます。そこで運動の最初は馬場を大きく速歩、駈歩し、体を動かすようにしました。そして次に間隔25メートルの横木２本を使って６歩と７歩を交互にできるように詰め伸ばしで脚への反応を軽くしていき、横木間をまっすぐに通過できるように練習しました。馬術の指導者の方にアンチョの大会での映像を見ていただいたところ、いいものは持っているが障害の跳び方がなっていないので、うまく肢をさばけるように幅が狭めのバウンスを行うといいというアドバイスをいただきました。アンチョの障害飛越は大きく、後ろ肢が高く上がりバーを落とすことは滅多にないのですが、踏切が遠くなりやすく、障害でついていくのは難しいです。具体的に、バウンスは間隔３メートルのクロスまたは低い垂直を５本、手前に2.7メートルのグランドバーを置いたものを行いました。若い新馬なら毎日でもこのバウンスを行って

も問題ないが、学生は塩梅が分からず、やりすぎて馬を壊してしまう可能性があるから気を付けなくてはならないとも言われました。高いクラスを目指していくにはもっと体を縮めてパワーをためることができないといけないと思います。

90センチのコースを回ってくることを今シーズンの最終目標とし、秋季大会が終わった後もコース走行は定期的に行いました。運動でしっかり動かせない時にはやはりコース走行でもうまくいきません。脚が効かないので扶助を強くしていきどんどん鈍くなる、馬も嫌になるという悪循環に陥りがちでした。このままでは終われないと思い、運動時間が長くなって馬が飽きてしまったことも大きな原因だと思います。ＯＢの喜十郎さんに見ていただきながら輪乗りの開閉を行い、フラットワークで移行を多く取り入れることで反応はだんだん良くなりました。バウンスでは最後の一つをオクサーにして少し高さを出すようにすると、バネのように踏み切るようないい状態まで持っていける時もありました。うまくいったときに燕麦をやることは有効です。シーズン最後のコース走行では、私が乗って90センチ、一年生が乗ってクロスで帰ってくることができました。まだ、90センチになると勢いで跳んでしまう部分はありますが、障害前で待てるところも増えたのでバウンスを続けた成果が出たのだと思います。

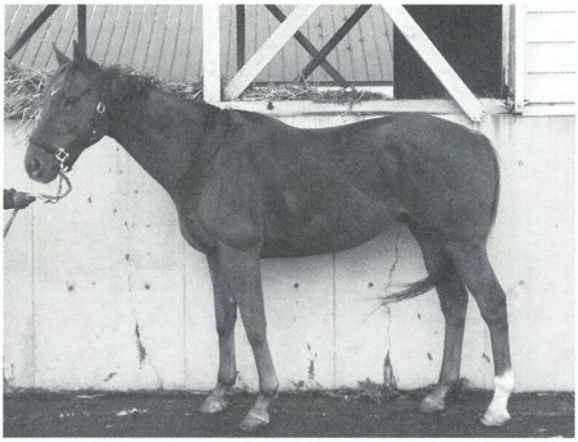
アンチョの課題としては、

・両手前でまっすぐに走れるようになること
・脚に対する反応をよくすること
・普通の歩数でコースを回れるようになること

が挙げられると思います。基本的なことばかりですが、アンチョはいろいろな乗馬クラブを転々としてきたという過去もありますので、高い能力を持っているからと言って焦らず基本的なことをしっかりとできるようにすることが、北大で長く活躍することにつながると思います。

跛行知らずの丈夫な体はアンチョの武器です。下級生でも安定してコースを回ることができ、北日、全日も目指せるエース馬になることを期待しています。

◆北暁号（ノーステア）◆



セン　サラ　栗毛
平成20年３月５日生
北海道勇払郡安平町ノーザンファーム産
父　ゼンノロブロイ
母　ムガール
平成27年12月４日入厩

堅　田　宏　樹

ノーステアは12月４日にノーザンホースパークから入厩しました。馬格も立派な馬で、現在ＯＢの中津さんや江口さんによって調教を進めていただいています。ノーザンではあまり調教されておらず１からのスタートになるので、時間はかかりますが将来の競技馬として活躍してくれると思います。

北海道大学水産学部馬術部

主将　**林　　はるか**

こんにちは、北海道大学水産学部馬術部の第15期主将を務めさせていただいております、学部３年の林です。現在、私たち北水馬術部は３年生５名、４年生５名、院生６名の計16名で活動しております。札幌の馬術部（我々は本学と呼んでいます）での活動経験がある部員は院生も含めて３名しかおらず、他は函館で馬術を始めた人ばかりです。

ご存知の方も多いと思いますが、北水馬術部は本学とは全く違う練習環境にあります。まず、練習はＪＲＡのご厚意により、函館競馬場乗馬センターで先生方にご指導いただきながら行っています。２年前から平日の朝練がなくなり、今はほぼ土日・祝日のみの練習です。当然ながら自馬は持っていません。函館という立地もあり、公式の大会に出ることもほとんどありません。本学に比べると練習機会は非常に限られていると思います。試合がなく、練習機会も少ないために、特に初心者にとっては目標を持ちにくくなっているのではと感じることもあります。一方でJRAの先生方にご指導いただけるという恵まれた面もあります。また、自馬を持っていないことは金銭的・時間的負担が少なく気軽に続けられるという長所にもなっています。北水は本学や他大学の馬術部に比べるとかなり敷居の低い部活だと思います。

このような特徴のせいか、北水馬術部は最近ではよりのんびりとした気風になってきていると思います。練習参加は強制ではないうえ、部員が全員３年生以上なため、研究室の都合などもあって練習への参加率はかなりばらつきがあります。今のような自由

な雰囲気を残しながら、全員がより積極的に練習に来る部にすることが現在の課題になっています。

話は変わって、本学の馬術部には毎年半澤杯などで大変お世話になっております。我々北水馬術部としても、一緒に活動している少年団にとっても、半澤杯は唯一の自馬での試合であり、皆とても楽しみにしています。秋の交流戦でも、なかなか馬を連れていけない私たちに貸与対応をしていただき、感謝しています。他大学などとの交流が少ない北水馬術部にとって、本学との交流や北日、全日などの結果や普段の活動を知ることはいい刺激になるのではないかと思います。今後も変わらず、より一層の交流をよろしくお願いします。

最後になりましたが、本学馬術部の人馬ともの健康とますますのご活躍を祈って結びとさせていただきます。

卒部にあたって

● 工　藤　雅　子（水産・運営）

２年という月日を、これほど短く感じたのは初めてかもしれません。馬についての知識も、馬に乗る技術も中途半端なまま卒部を迎えてしまうことは少し悔しい気もしますが、この２年間で貴重な経験がたくさん出来たことはこれからの私の強みになってくれると思います。

馬は私にとって時には癒しであり、時には悩みの種であり（悩みの種だったことの方が多い気もします）、とにかく一度も馬のことを考えなかった日はないと思います。たくさんの馬に出逢い、その一頭一頭がみんな愛すべき個性を持っていました。そういう所が人間くさいなぁと感じ始めるようになってから、私の人を見る目も変わったような気がします。人の良い面をよく見ることができるようになったと思います。腹が立つようなことがあっても、「まぁこの人はこういう良いところもあるからいっか。」と踏みとどまることができました（笑）。心の余裕を与えてくれた、今まで会ったすべての馬達に、ありがとうと伝えたいです。

また、支援して下さったＯＢ・ＯＧの方々、馬関係者の皆様、ついてきてくれた後輩、いつでも温かく見守ってくれた先輩方にも、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

そして、ドンパのみんなへ。こんなに自分を隠さずにいられる場所は、実家と馬術部ぐらいなものです（笑）。それもこれも、みんながどんな私でも受け入れてくれて、ダメな事はダメ、良い事は良いと面と向かって言ってくれたからだと思います。何回も衝突した人もいるし、私の言動で傷つけてしまったことも絶対あると思います。ごめんなさい、でも多分私だけじゃないよね（笑）。家族同然なみんなとの思い出は忘れません。本当です。

どうやら馬に乗る楽しさを忘れられないみたいなので、函館に行っても馬術を続けたいと思います！だからきっとまたどこかで会えるでしょう。馬術関係者の世界は狭いですからね（笑）。楽しみにしています。

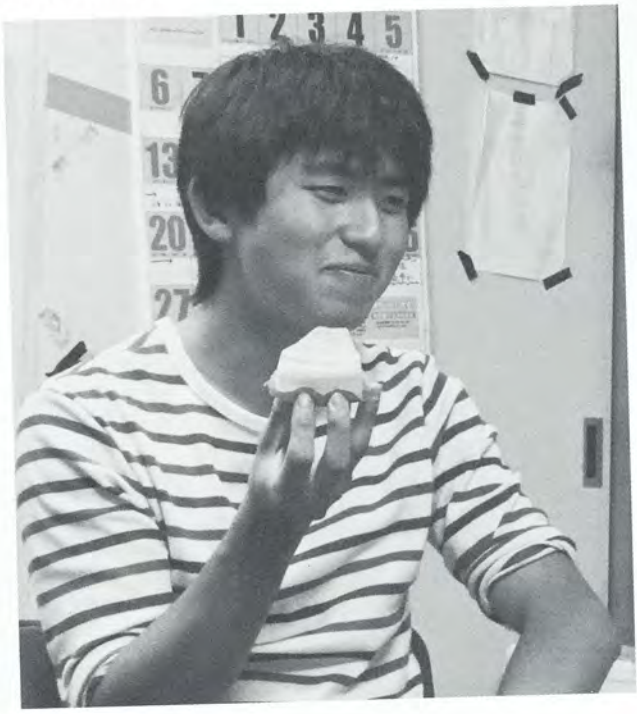
最後に、私が言いたいこととしては、この文章でも度々登場しま

した、（笑）←コレですね。辛いことがあっても笑ってみてください。よっぽど深刻でなければほとんどこれで解決できると思っています。何回も一人で勝手に落ち込んで、病んで、結局は立ち直ってきた私からのアドバイス的なものとして受け取って下さい（笑）。
それではみなさんお元気で。ありがとうございました！

● 寺　嶋　伊武樹（水産・作業）

入部する前に中兄に「本当に馬術部でいいの？」と言われてから早くも２年が経ち、卒部を迎えることになりました。今回同じくして卒部を迎えられる中津兄、新谷姉、そして同じ水産学部の工藤と比べ自分が部活に貢献できたことは微々たるものだったと思います。

入部してからの最初の半年は、本当に「未知との遭遇」の連続で休む暇もなかったように思い返します。生き物が生活の中心にあることは今までになかったことであり、生活リズムが大学に入ってから劇的に変化しました。この変化に臆することなくこの卒部に至るまで部活を続けられたのはひとえに先輩や後輩、そしてともに入部して今まで部活動をしてきた同期のおかげであり、本当にありがとうございました。この部活ほど一日のうちで部員と顔を合わせる時間が多い部活動は他に知りません。楽しいことも辛いことも共有してきたことはこれからの人生の糧になると思い、大切な財産にさせて頂きます。本学に残られる部員のかたには部員同士の仲を今まで以上によりよいものにし、部活動に還元してくれるであろうことを望みます。



函館キャンパスに移行してからもあちらの馬術部に入り馬術を続けていく所存です。本学に比べて格段に練習時間は減少してしまいますが、競馬場の先生方のお力添えを頂きながら精進していきます。北水馬術部に入部してからは、より一層本学馬術部との交流の場を増やしていき、お互いが切磋琢磨しあえる関係になるよう努力していこうと考えています。いつの日か北水馬術部が本学馬術部の驚異になれるよう北水馬術部の技術向

上も図っていきます。

最後に、自分を後輩として先輩として同期としてともに部活動をさせてもらい本当に幸せでした。今まで関わってくれた人全てに感謝の意をこめて最後の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

● 新　谷　理　紗（農・主務）

私は生魚が好きではありません。「いきなり何だ」、「北海道に来ておいて何を言っているんだ」、「もったいない」と思われたことでしょう。話を進めます。

私は北大に入学する前から馬術部に入る！という強い憧れ・意志を持っていました。その理由は単純に馬が好き、乗ってみたいというよくあるものだったと思います。入ってからもかわいい馬にはもちろん、個性的な部員に囲まれ、楽しい日々を過ごしました。しかし、試合にはあまり興味がありませんでした。もちろん、部員の試合には全力でサポートし、心から応援していましたが、自分自身が試合に出るということは考えませんでした。「馬術部に入っておいて何を言っているんだ」、「もったいない」、「それでなぜ4年間続くのか」と思われましたか？実際によく言われました。

生魚の話に戻りますが、私は焼き魚は好きです。特にブリ。また、回転寿司に行ってもいなりずしやかっぱ巻き、卵巻き、茶碗蒸しなど、好きなものは多々存在し、楽しめます。将来、生魚のおいしさを知ったときに、もっと食べておけばよかったと後悔するかもしれません。ですが今の私は刺身よりも焼肉、ケーキバイキングの方が魅力的なのです。

馬術部生活も同じです。私は競技馬に乗って試合に出ることよりも、北大構内を歩く外乗や、馬の温浴・丸洗い、部員との談笑が好きでしたし、主務の諸雑務や各地でのバイトも（ある程度は）好きでした。将来、もっと乗っておけば良かった、大会に出ておけば良かったと思うかもしれませんが、そのときはそのときです。

もちろん私がこのように好き勝手にできたのも、数々の輝かしい成績を収め、立派な馬を調教し、卒部後も色々なご支援をしてくださり北大馬術部を作り上げてくださった諸先輩方や、近くで努力する姿勢を見せ続けてきてくれたドンパ、励ましてくれ、癒してくれ、おだててくれた後輩たち、そして遠くから見守ってくれた家族のおかげです。４年間、充実した馬術部生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

●中　津　裕　太（農・主将）

入部して、卒部するまでの３年半は長かったような、短かったような、よく分かりませんが、とにかく攻めて駆け抜けた時間だったと思います。入部したての頃はとにかく多く馬に乗りたくて、最後の常歩だけでいいので乗せてくださいと言いつつ、ちゃっかり普通に運動させてもらうこともしばしば。週末も当番はドンパに頼んで替わってもらい、柳田兄や松尾兄にマオイまで連れて行っていただき、ちょっと作業した後はずっと乗りっぱなし。寒い中ドンパにビデオを撮ってくれと要求、果ては先輩にまでよくビデオを撮ってもらう始末。仕事は後輩にぶん投げる．．．今まで多くの人に迷惑をかけてきました．．．本当に書ききれません。

最後の年の北日から全日までの間は、自分にしては異常に結果が良かったのですが、これまで多くの人や馬に迷惑をかけてきたことを考えると、これくらいやってなんぼという気もします。今まで愛想を尽かさず、温かく見守ってくださった先輩方、最後まで我儘に付き合ってくれた新谷、後輩たちには本当に感謝しています。ありがとうございました。

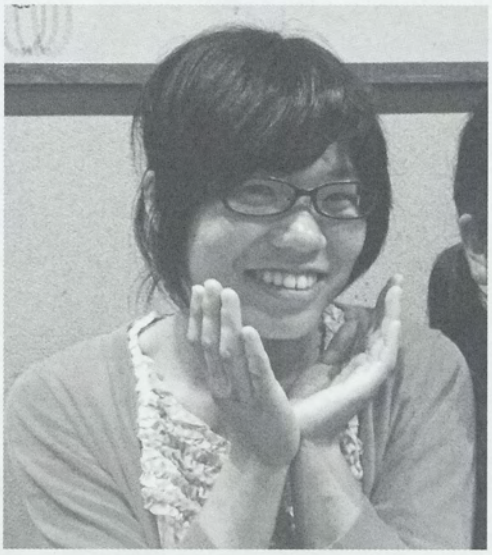
部員紹介

3年目

◎ 中　　一 輝

驚くほど仕事が早い。四年間無遅刻無欠席を難なく達成できそう。だらだら長いミーティングは嫌い。たまにで良いのでドンパにも優しさを下さい。
就活もダイエットも頑張れ。

◎ 佐 治 ひな子



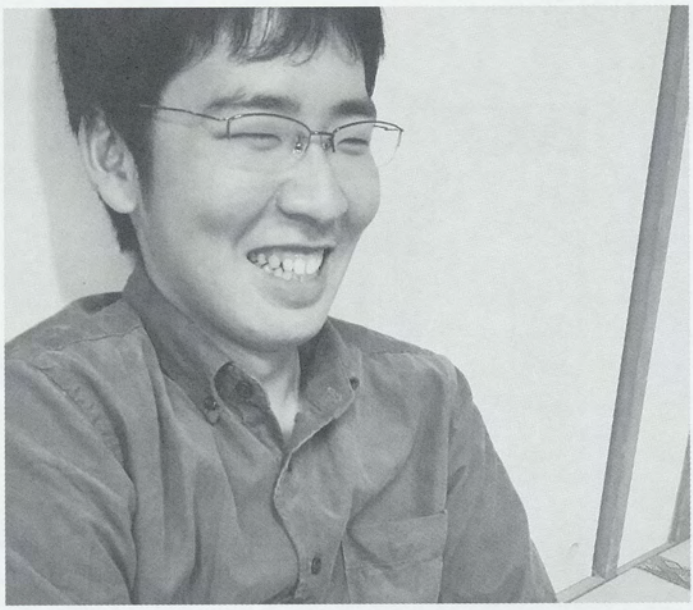
馬術部では珍しいヒトのお医者さん。冷静に考えるとここまで続けてて凄い。
発想がぶっ飛んでる。多数の姉弟をもつリアルおそ松さん。

2年目

◎ 上 谷 丹 里

馬房では常に寝ている。女子が好きでスリスリしてくる。基本騎手の扶助には従順だがスキあらばサボろうとするので注意。

◎ 堅 田 宏 樹



騎手の扶助に従順な素直な性格。たてがみが少ないので引っ張らないであげてください。

◎ 岸 本 真 琴

機嫌が悪いと噛み付くが叱られるとちゃんと反省する。馬着を嫌がるのでチーフは彼女の馬体管理をしっかりしましょう。

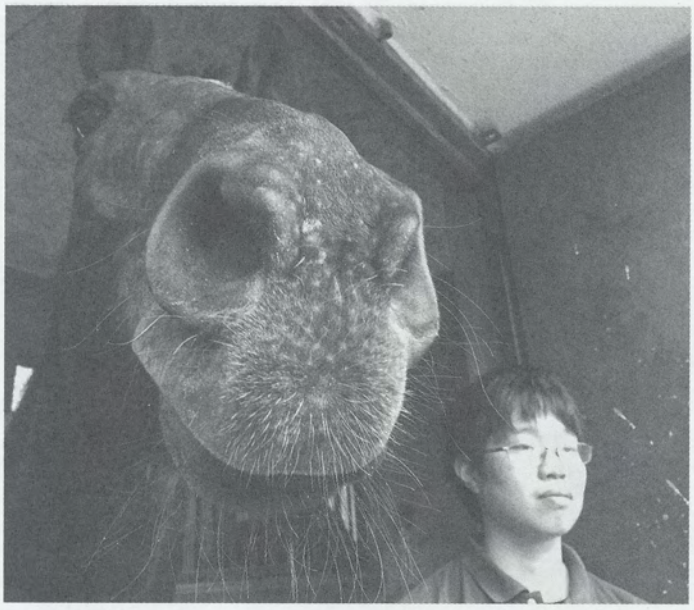
◎ 杉 田　　優

スイッチが入ると突っ走るので注意。騎手が落馬したのに気付かずに走り続けることもあるので手綱はしっかり握りましょう。

◎ 高 橋 春 南

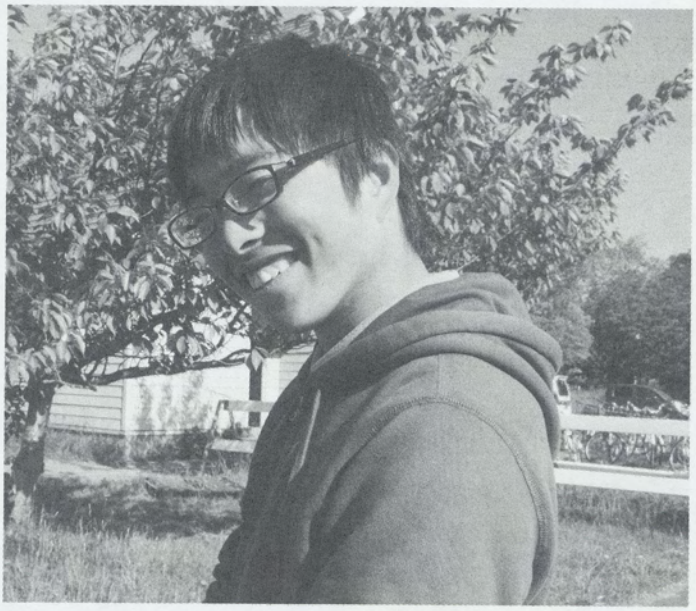
騎手が真面目に彼女に向き合うほど、その分真面目に応えてくれるはず。餌を与えた分だけ食べるので馬体管理をしっかり行いましょう。

◎ 本 丸 尚 人



基本大人しく、真摯な性格。しかし夜に馬房に入ると噛み付かれるので気をつけましょう。

◎ 寺 元　　純



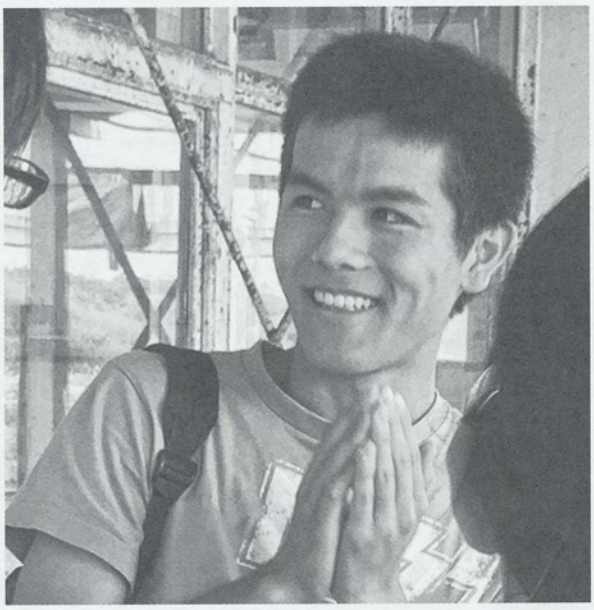
機嫌に左右されやすい。多頭放牧ではリーダーシップをとりたがる。器用なので馬場むきです。

1年目

◎ 井 畔 貴 之

ログを溺愛。あと清田が好きすぎて本人にはうざがられている。いたずら好きだが本当はしっかり者で要領もよく、その行動には落ち着きがある。マイペース。

◎ 上 野 健 太

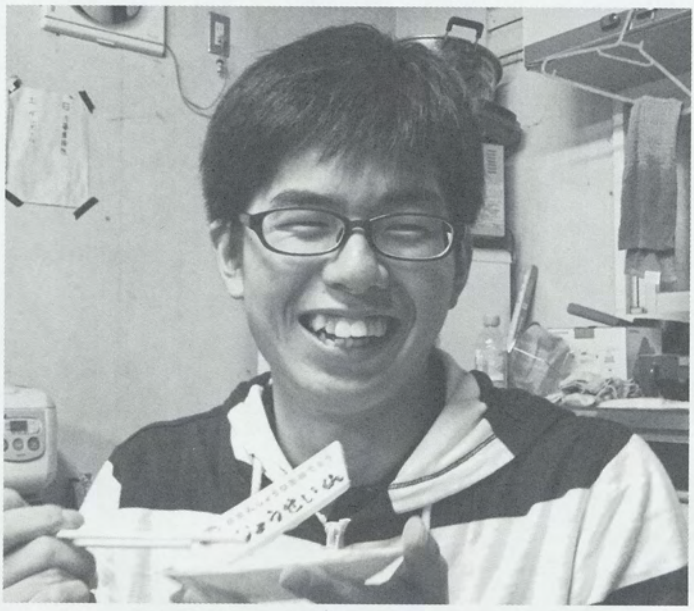


1年目にして上級生の風格を備えている。その見た目や言動のせいでモアイだのオネエだの言われるが、真偽の程は不明。よく聖飢魔Ⅱの黒ミサに参拝する。得意料理はホットケーキ。

◎ 清 田 興 朔

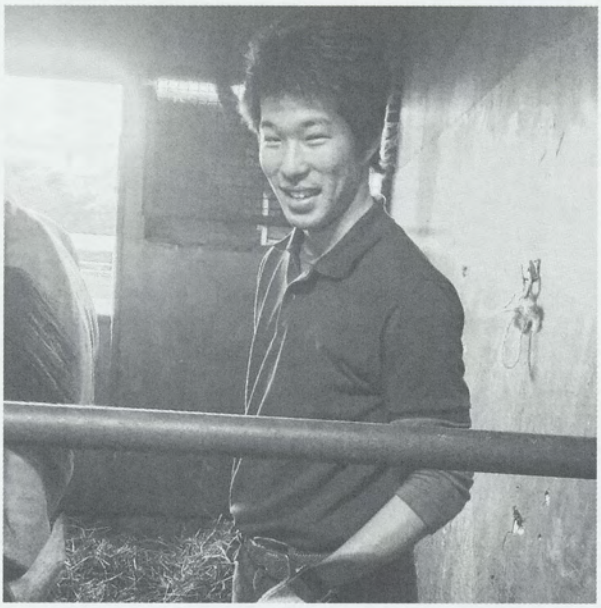
ゲームと映画が好きでそれ以外のことには無関心。おおむね優しいがたまに冷たい。気軽に家に泊めてくれる「みんなの家」。約１名の女子（主にＴ所）にかわいいと人気である。

◎ 桑 本 涼 成



言動がイケメン故に部誌に「今日の桑本」コーナーがある。隠れゲーマー。真面目な性格でみんなの頼れる馬備だが、常にレポートに追われているため頼りすぎは禁物である。「６番の鉄爪がないんだけどォ」。

◎ 高 野 航 太

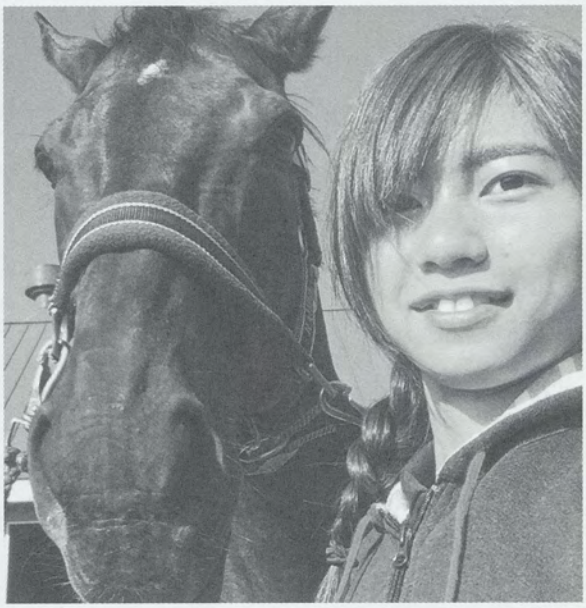


きれい好きで、細かいところまで目が届く。いつも笑顔の絶えない馬術部のにぎやか担当。現在休部中。

◎ 矢 渡　　光

真面目で優しくてミステリアス。見るといたずらをしたくなる。犬が大好きで、しばしばハナコと戯れている。声がかっこいいと女子に評判。そんな彼の本当の姿は、ホラーと虫が苦手なポケモントレーナーである。

◎ 大 木 八 恵



沖縄出身。１年目女子最後の砦（女子力的な意味で）。練習熱心でできる女。スペの変顔を撮るのがうまい。富所に続くスウェットガチ勢。

◎ 北 市 楓 美

料理が得意でドリア会の会長を務める馬術部の主婦。現役で薬学部というかなりのハイスペック。英語の優秀認定もとっている。サバサバ系でしっかり者だが部屋はきｔ……。

◎ 富 所 菜々花

チェルシーを溺愛。標準語を話すが実は関西人で、ものまねには手を抜かない。勢いで笑う。野谷と一緒になるとうるさい。スウェットガチ勢。

◎ 野 谷 夏 海

クール系コミュ障。小樽の実家から通いつつよく札幌に泊まる。腰痛持ち。富所と一緒になるとうるさい。とりあえず「それな」。「のや」と呼ばれているが実は「のたに」。

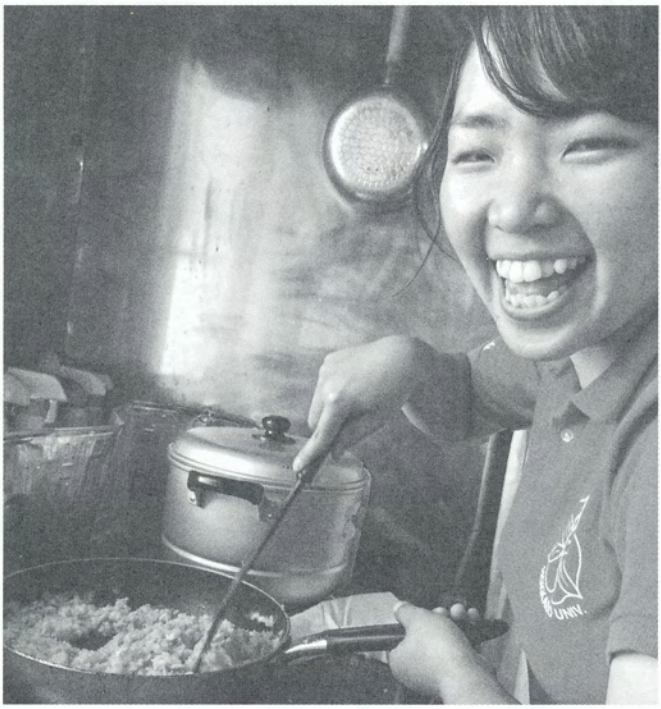
◎ 平 澤 礼 奈

誰からも愛されるドジっ子だが、中身は意外とブラック。ピュアメモリーを溺愛。適当に話を合わせる馬術部の高田純次。包丁を握らせたくない人物No. 1。

◎ 古 川 瑞 穂

アヒルちゃん大好き。朝が苦手で目覚まし時計７個を愛用、カフェインを愛飲。KinKiKidsのためなら帰省をも諦める。毎日自炊、お弁当まで作る家庭的で勤勉。

◎ 横 尾 夏 未



芦毛を愛す真の関西人。LINE のメッセージがかわいい。テンションが上がるとうるさい。寒くなると冬毛が生えたようにモコモコしてくる。遅刻理由は「マフラーを自転車にひっかけた」「スリッパで家を出た」、本人はいたって真面目である。包丁を握らせたくない人物 No. 2。

現役部員名簿

氏名	学部	役職
3年目		
佐治　ひな子	医	主務
中　一輝	経済	主将
2年目		
上谷　丹里	理	副将
堅田　宏樹	理	会計
岸本　真琴	理	運営
工藤　雅子	水産	運営
杉田　優	工	作業
髙橋　春南	農	馬匹
寺嶋　伊武樹	水産	作業
寺元　純	工	会計
本丸　尚人	理	作業
1年目		
井畔　貴之	獣医	馬匹
上野　健太	理	馬匹
大木　八恵	医	運営
北市　楓美	薬	作業
清田　興朔	理	作業
桑本　涼成	理	作業
高野　航太	総合理系	馬匹
富所　菜々花	文	運営
野谷　夏海	水産	運営
平澤　礼奈	獣医	運営
古川　瑞穂	医	馬匹
矢渡　光	経済	作業
横尾　夏未	農	運営

※現在休部中

編集後記

今回の部報作成は、諸事情により途中で前任の担当者から引き継ぐことになり、慌ただしい中での制作作業となりましたが、なんとか発行までこぎつけることができました。

昨年は離厩する馬が多い年でしたが、今年は５頭も新馬が入厩し、厩舎が大分賑やかになりました。新馬調教については、まだまだOBの方々にお世話になりっぱなしですが、現役も頑張って、少しずつ引き継いでいければと思っています。近い将来、今の新馬たちが北日、全日で活躍することを期待していてください。

最後になりましたが、お忙しい中時間を割いて原稿を書いてくださったOBや現役部員の方々、ご協力ありがとうございました。お陰様で、今年度はほぼ予定通りに発行することができました。また、日々部活を支えてくださっているOBの皆様に心から感謝申し上げます。今後とも北大馬術部をどうぞよろしくお願いいたします。

大木　八恵

北海道大学馬術部部報　　第６１号　平成２８年　４月発行
編集者　北海道大学馬術部部報担当
大　木　八　恵
印刷所　　ひまわり印刷株式会社
〒065－0030　札幌市東区北30条東6丁目2－1
発行所　　北海道大学馬術部
〒001－0023　札幌市北区北２３条西１２丁目
TEL・FAX　０１１－７３７－１６２６
銀行口座　北洋銀行 391-1-0443731
表紙元写真撮影者　井　上　　京